

総務経済常任委員会会議記録（概要）

令和7年11月4日（火）

開 会（午前10時0分）

【議 事】

○所管事務調査「旧庁舎と文化会館跡地の活用」について

大石健一委員
長

本日は参考人として、ソラバル実行委員会の深井隆正さん、所澤神明社の三芳文彬さん、株式会社コイヌマの肥沼直明さんに御出席をいただいております。本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のために御出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心からお礼を申し上げますとともに、忌憚のない御意見をお述べくださるようお願いいたします。

【参考人の意見陳述】

深井参考人

おはようございます。ソラバル実行委員会の実行委員長の深井隆正と申します。本日はよろしく願いいたします。

まずはソラバル実行委員会として呼んでいただいているので、ソラバルの簡単な説明をさせていただいて、その後に旧庁舎と文化会館跡地の活用方法について、私なりの考え方を話させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

まず、ソラバルというイベントは毎年8月のお盆明けの週末頃、今年は4日間で木曜日から日曜日にかけて開催しました。例年ですと金曜日

から日曜日の3日間開催だったのを、今年から少し拡張させていただいております。コロナ禍であった2020年から2022年までは開催していなかったのですが、それを除いて大体10年間続けてやらせていただいているイベントとなっております。元々はJAZZバルというイベントでして、その頃は私も関わらせていただいていたのですが、音楽のあるまちづくりというところの観点からも、市内の飲食店の中でライブハウス形式でジャズを聞きながら、飲食を楽しめる店舗というのを増やしつukっていく。そのお店を巡っていただくというようなイベントから最初は発生しました。今となっではいわゆる街バルとして、市内の様々な店舗を巡りながら、新しいお店を発掘していただけるようなイベントになっています。こちらがパンフレットでして、こちらが参加証になるソラバルパスポートです。航空発祥のまちにちなんで、空に紙飛行機の絵もつけており、このパスポートを持っていると、イベントに参加できます。まずは、こちらの参加証を前売り券として500円、当日券として1,000円で購入いただきます。これがソラバルという街バルイベントの共通参加証になります。こちらを1枚買うことによって、市内で101店舗に参加していただいているのですが、これらの様々な店舗にソラバルのためのメニューを1つ用意していただいているので、そちらのメニューを通常よりお買い得な価格で楽しめるというイベントとなっております。

例えば、500円の前売り券パスポートを買っていただいたとして、

普段だと700円くらいの定価のものを500円で買えます。その店舗に500円払っていただきますが、普段だったら700円払っていただかなきゃ食べられないメニューなので、そこでまず200円お得になります。また、次の店舗に行ってください、定価だと1,300円のを1,000円を買っていただくとまた300円お得になるというような形でいくつもの店を巡っていただきながら、最初に500円を買っていただいたパスポートの価値をどんどん生かしていくというようなものになっております。

参加していただいている店舗が所沢、新所沢、西所沢の3つのエリア周辺地域にあり基本的には個人経営をしているような飲食店や深井醤油、荒幡肉店のような物販の店もあります。そういった店をどんどん回っていただいて、一つ一つの店舗を巡っていただく毎にスタンプを押していただき、自分たちで何件回ったというのも楽しんでいただくようなイベントになっています。このイベントに参加していただくメリットとしては、初めて訪れる店舗というとなかなか敷居が高く、特に個人店は地下や2階であったり、大通り沿いではなかったりするのでお店に気づいてもらえなかったり、お店を見たことはあるけど常連さんしかいなかったらどうしようとか、なかなか雰囲気として自分とはすぐわないのではないかなとか、そういったことで入ろうと思っても躊躇してしまう。そういったところをソラバルというパスポートを持っているから来ましたと言えば、1人でも気兼ねなく参加できるのですごく敷居が低くなりま

す。その上で、様々な店舗もあるので本当にそのイベントメニューだけ頼んで、また次の店に行きますと言って帰るのが許されるような雰囲気が出ておりますので、お店に入って失敗したとかそういったことも、1つのメニューだけ頼んで次の店に行けます。どんどんそうやって回っていただいて、新しいお店を見つけていただいたり、次の店まで歩いていただくことで所沢の町並みを感じていただいたりしながら、屋台営業とかではなくて実店舗を回っていただくイベントですので、次は忘年会に使ってみようとか、友達を誘ってみようとかそういった新しいリピーターを発掘できるような、参加者にとっては所沢の楽しみ方を発掘でき、参加店舗にとってはリピーターを作っていけるようなイベントになっております。

大まかにはそういったイベントになっていまして、店舗マップみたいなものをつけており、所沢周辺、西所沢周辺、新所沢周辺の実店舗のマップにもなっているので、この日を楽しむだけのイベントではなくて、この日をきっかけに、所沢のにあるお店がどういう場所かということを知ってもらって、所沢で飲もう、所沢で買い物をしようということを日常に落とし込んでいくような、365日に繋がるイベントとしてやらせていただいております。私はソラバルとしては、実行委員長として活動させていただいております。他にも観光協会の副会長だったり、去年は所沢青年会議所の理事長をさせていただいたり、まちづくりにも様々な形で関わらせていただいております。

本業としても、深井醤油株式会社の代表取締役としてやらせていただいております。所沢の中では名物というか贈答品にも使えるようなものを製造販売させていただいている身として、さらには旧市役所庁舎の近隣で事業をやらせていただいている立場として、旧市役所庁舎の再活用をどのようにしていきたいかということを今考えている現状としてのお話をさせていただければと思っております。

前提としては、ソラバルと同じ考え方だと思っているのですけれども、今所沢市の都市計画課のほうでグランドデザインという実証実験をしながら所沢で回遊性を持たせようという動きをやっていると思っています。その中で感じているのは先ほどのように、イベントのために集まるような、例えば、ところざわまつりとかもいいことではあるのですけれども、その日が潤うというよりはしっかりとそのイベントをきっかけに日常の365日を楽しめるまちにしていきたいというふうに考えております。なので、やはり旧庁舎と文化会館跡地は元々市役所があっただけあり、栄えていなければいけない場所だと思うので、今ベッドタウンとして発展している町並みですけれども、大体そうなってくると所沢駅に歩いていくというか、私のところも160年以上続けている会社ではあるのですけれども、フォーラスタワーとか近くに住んでいる人たちも所沢駅に向かっていくので、新しい方々にとっては、醤油屋があったんだっけと、やっとヤオコーができて知ってもらえたというような、近くにいるのにみんな所沢駅に目が向いてしまっていて、近くの店舗とか

は見向きもされていないというような状態が続いていたので、やはりそこに向かっていくような場所になってほしいというふうに思っております。その中で、一つ突拍子もない絵空事を話させていただくと、まずはそこ周辺を駅にしたいというくらいの思いを持っています。これは私が銀行で働いていましたが、10年前くらいに所沢で家業を継ぐために戻ってきて、最初にある建設会社の方に初めて会った時に衝撃を受けた話で、ところざわサクラタウンをその頃に構想していたので、「サクラタウンのほうから東川沿いをずっとモノレールを引っ張っちゃえばいいんだ」という感じで言っていたのですけれども、その中で旧庁舎と文化会館跡地のところもしっかりと栄えるような形にして、そのまま東川沿いをずっといって、狭山湖のほうを通して、モノレールをこっちに拡張したいという話もあるのでそこまで繋げて、東所沢のほうから立川のほうまで繋がるようなことをしていけばいいんじゃないかみたいな絵空事みたいなことですが、その話にすごく衝撃を受けました。なので、やはりそれくらい栄える場所にしていただけたら嬉しいなというのがまずは1つの思いであります。ただ、現実的なところで言えば、大きくは3つ考えています。

1つ目はバンケットルームみたいな形です。様々な地域を盛り上げるための団体は今あるのですけれども、その人たちがしっかりと総会や懇親会をする場所というのがなかなか限られていて、今は所沢市民文化センターミュージズしかないのかなと思っています。ベルヴィザ・グランと

いうところが、元々エクセルホールだったり名前を変えながらもずっと結婚式等に使える会場としてあったのですが、そこはついに解体されてしまったというところもありますので、やはりそういう人たちが集まれるような、総会をしながらバンケットルームみたいな感じで懇親会場にできるような場所にしてほしいと思っています。ただ、結婚式場みたいな感じで人件費がかかるような形だとなかなか運営しづらいと思うので、ケータリングを使ってでも、人が集まりやすいというような場所があったほうが人がそこに向かってきて、まちを盛り上げようとしている人たちが集まれる場所になるのかなというふうに思っています。

2つ目は、今、まちづくりセンターだったり郵便局だったり商工会議所であったりと、人々が集まりやすい環境というのが近くにありますので、そういった中で何か事業を発信したいというような人たちが集まりやすいような場所にしていければ面白いのかなというふうにも思っています。簡単に言うと、例えば所沢市役所でもよく1階でやっておりますが、中小企業診断士の方々が相談したりだとか、不動産の話だとかそういったことを相談所としてやっていたりすると思うのですけれども、そういうような形で、例えば保証協会での最初の企業融資に関われるところに移行しやすい場所だとか、そういったことによって事業を始めたとか、所沢でせっかくだったら住み続けながら何かやり続けたいという人たちが流出しないような、さらには近隣の地域とかから事業をせっかく始めるんだったら所沢でやりたいなというような感じで、所沢に向

かってくるような環境を作れるようなまちにもなるんじゃないかなというふうに思っています。こういったところを重点的にやっていただければ面白いのかなと思っています。

3つ目は、人がちゃんと集まれる場所ということで、人をしっかりと集められる環境を作りたいなと思っています。しかし、やはり近隣で一番気になっているのは、駐車場が少ないというところなのかなと思っています。その部分について、そういった環境もありますが、せっかく道路を挟んで向かいに2つ大きな敷地があるので、しっかりと人が集まれる環境をつくるためにも駐車スペースというのを確保しながら、例えばお正月のときには初詣だとか、宵の市もそうですけれども、そういった形で日常的に人が集まって何かをしようと思っても、人を呼び込める環境というのを作つくりづらくて、苦勞している人もすごく多いです、本当の目的ももちろんですけれども、そういった何か一連のイベント的なものに対してもしっかりと人が集まりやすいような環境をつくれるとこういったところを重点的に考えていただければ、駅から離れていても様々な人たちが向かって、生き生きと新しい未来を見据えながら人が前を向きながら集まれるような場所になるのではないかなと思っています。そのようなことができる環境があると嬉しいと思っています。

以上とさせていただきます。

三芳参考人

おはようございます。まず、自己紹介からさせていただきます。御紹

介いただきましたとおり、私は宮本町の神明社という宮司家に生まれ育っております。神明社の歴史といたしますと、正式な由緒であったりは江戸時代の文政9年の3度目の最後の火事をきっかけに古記録がほとんど消失してしまったので、創建の細かな理由は分かっておりませんが、現存する記録物で言うと、嘉暦2年の室町時代頃の1, 300年代の石碑なんかが残っておりまして、少なくともおよそ800年前には神明社という名で鎌倉街道沿いにあった社なのではないかなと思っております。ただ、その石碑があるからにはそれまでにそれなりの村人が集まる社だったという歴史がないとそういったことには繋がりませんので、小手指の北野天神社は700年くらいに創建されているのが分かっており、恐らく村と村の繋がり的に人の霊璽を考えると、当社においても恐らく1, 300年から1, 500年前くらいには社があったのではないかという推測ができます。

まず申し上げたいのが、およそ1, 500年間、我々宮司家は所沢市とともにここで育ってまいりました。一般の企業や市民と違って、神社という立ち位置はまさしくこの土地と運命共同体の関係性になります。普通の企業や市民であれば、ちょっとこのまちは寂れてきたから、ここじゃまずいなって移動していくことができますが、我々神社はこのまちが死んでいくならばともに死んでいく運命にあります。なので、誰よりもこの所沢市の未来を、発展を祈っている立場であることを、まず一言申し上げさせていただければと思います。

時代が難しくなっていって、政教分離であったり、信仰の自由というところで、どこまで我々の存在を前面に出していいものか、主張していいものか日々悩まされ考えておりますが、まず我々としては、神社というのは公共的な空間であるということを申し上げておきたいと常々感じています。我々は誰であろうと、どんな職業、年齢の方でも、我々から拒むことはない場所です。普段から年間でいうと約50万人が訪れる神社です。その半数ほどは初詣の時期に集中していますが、日常ですと訪れるだけでなく通っているだけの人もいますけれども、1日当たりに500人から1,000人くらいが集まっている場所なのかなと思っています。

個人的な自己紹介をすると、神職、神主の道を歩もうと思ったのは20歳の時でした。少し大人に差し掛かったときに、改めて自分の生き方というものを考え直して、やっぱり私は所沢が好きだな、自分の生まれた環境が好きだなという思いを、今度はそこに恩返しをして貢献していかなきゃいけないと思って、家を継ぐということを決め、資格を取りに大学に入りました。

大学在学中に何をやらなきゃいけないか、何ができるかと思って、まず取りかかったのが、47都道府県全て回って様々なまちを見てこようということでした。大学4年間の間でほぼ47都道府県の県庁所在地と、いわゆる全国で地名認知度のあるまちは神話の物語をたどりながら、このまちはどんなまちなんだろう、神社とまちはどういう関係なんだろう

というのを感じながら旅をしてきたのが、まちづくりというものに興味を持った最初です。

ここからはあまり自己紹介してもしょうがないので、旧庁舎と文化会館跡地の活用についてお話をさせていただければと思います。まず、所沢市の様々な計画や方針というのが、これまでも指し示されてきていると思いますけれども、そこで決まっていることを変えてしまっただけとはいえないと私は思っています。そこで決まっていることはやっぱりウォーカブルであって、回遊性あるまちというのが、まずどこでも掲げられています。では、回遊性がありウォーカブルになるにはどうしたらいいかというと、出発点になる地域では駄目だということは思っています。出発点、つまりはタワーマンションであったり、そういう人の住む場所になってしまうのでは結局は所沢駅の方面に人が向かって進んでいくスタート地点になってしまうだけです。そうではなくて、放射状にそのエリアを目掛けて人が目的地にするべき場所にする必要があると思っています。現代の人間、日本人に限らず、世界中の人が共通しているのが、1つの目的だけではそこをゴールに設定することはなかなか難しい時代だと思います。所沢市内でも分かりやすく言えば、やっぱりエミテラス所沢や駅に人が集中するのは複合的に1つ中心があり、今日ご飯が食べたい、今日は服を買いたいという目的プラス何か、もしかしたらそこで何かできるかもしれないという期待感が必要だと思っています。今回の旧庁舎と文化会館の跡地に関しても、1つの目的を設定しながらも、

プラスアルファ何かができるという期待感を持てるものにしないと結局人は集まってこないエリアになってしまうのではないかなと思います。

ただ幸い、所沢のかつての中心は銀座通りの旧町辺りということもあって、その土壌はまだ残っています。その一つとして、うちの神明社であったり、先ほど深井参考人が話していた深井醤油という一種の所沢のアイデンティティ、郷土の歴史に繋がるものがまだまだ眠っています。プラスアルファで今後必要なのは、どういうところに人が集まるのかというのをきちんと見て、それに沿って発展させていくことで、私が見るに、やはり人が集まるのはその複合的な目的を持てることに加えて、もっと原始的な緑と水に人は集まってきます。全てを公園にしろとは思っていませんが、やはり緑と水があるだけである程度、何も目的がない時間の使い方、潰し方は明確でない層がそこに集まってくるのは明確かなと思います。

文化会館の跡地に関しては、恐らく坪数で450坪から500坪くらいだと思いますけど、そこをどう活用するのかというのは広さ的に難しいのかなと思っています。また、文化会館跡地に関しては、裏側に8mほどの崖を背負っていることもあって、かなり条件が限られたエリアだと思っています。これは個人的な御提案というか、こういうことも我々ならできますよというお話なんですけれども、文化会館跡地と私の実家とその前にある黒須医院は市の再開発によっては明け渡してもいいと思っています。私の実家と黒須医院を合わせると約250坪くらいになる

ので、そうすると大体1,000坪くらい合計で取れるようになるので、平面の駐車場にしても1,000坪だったら、50台近くは止められるのかなと思います。これが立体駐車場や地下駐車場になると、単純計算で倍増するので、駐車場という観点で言うと可能性は広がると思います。コストの面もあるので、どこまでやるかは分かりませんが、うちが明け渡すことによって、その活用の仕方の可能性が広がるのではないのかなと思うので、まずお話しておきました。

さらに言うと、日本人は本物を追求する国民性だと思っていて、例えば海外にはブランド物の偽物がありふれていると思いますけれど、日本人はそこに全く魅力を感じていない。本物を買うことに意味を見だし、本物を手に入れたいたいという欲求が強い民族だと思っています。まちで言うと、例えばある国では、我々外国人が見るための通り沿いには豪華な発展しているだろうと思わせるような、恐らく体力に見合わないマンションなどを建ち並べさせているが、その裏側を見たらただのスラムタウンみたいな状況です。日本人はそういうことに対して、これは本物のまちではなくて仮面の姿であるという評価を下す民族だと私は思っています。では、所沢はどうかという時に、やはりタワーマンションというのは銀座通り沿いを中心に建ち並んでいます。その表面だけ育てているのではなくて、やはりそこにさらに奥行きを持たせていくには、銀座通りに直接面していない旧庁舎と文化会館の跡地のほうにある程度の魅力ある空間、そこから放射状にさらに個人の事業者が集まってくるよう

な環境が必要だと思っています。道といったまちづくりの奥行きだけじゃなくて、まちという意味でも奥行きが必要で、まちの活気というのは簡単に言うとプレイヤーがどれだけいるかということです。イベント等もプレイヤーがいるからこそ支えられており、会社員が住むだけのまちだとどうしても奥行きが出てこない。プレイヤーが育つまちをつくらなければいけないとっていて、そういったプレイヤーの出発点として起業できる空間が所沢の中心地にあるというのが実現できるとかなりの強みになるのではないかと考えています。以上になります。

肥沼参考人

おはようございます。肥沼直明と申します。

私は、株式会社コイヌマという会社で働いておりまして、コインパーキングの運営会社を行っております。所沢市に事務所がございまして、所沢市を中心に270か所くらいの駐車場、駐輪場を運営させていただいております。所沢市に事務所がありますし、私も父、祖父と5代くらいは所沢で生まれ育っておりますので、所沢の地縁をいただいて、所沢市内では85か所くらいの駐車場、駐輪場を運営させていただいております。旧庁舎の南側と北側合わせて30台の駐車場を平成30年11月より使わせていただいております。その関係で本日参加させていただいております。これまでの私の地域での取組については、地元企業として会社はちょうど60年、そして私自身もずっと所沢で生まれ育ちまして、皆さんと一緒に青年会議所、商工会議所青年部、所沢ロータリークラブ、

所沢商工会議所の商業部会、総務委員会などでもまちづくりについて参加させていただいております。

私が本日参加したのは旧庁舎の駐車場の利用状況だと思いますが、南側の商工会議所寄りに20台、神明社寄りに10台の2か所の駐車場として運営させていただいております。1年間で1万8,573台の利用があり、月に平均しますと1,547台に使っていただいております。

このコインパーキングは、看板には3分間と書いていますけども5分間は無料ですので、無料の方も多少いらっしゃるのですけれども、その方々も利用者として捉えている数字となっております。皆さん御存知と思うのですけれども、市営の元町地下駐車場というのが、商工会議所の下にございまして、そこに123台の駐車場、いわゆるコインパーキングの時間貸し駐車場がございます。はじめの30分が無料でそのあとは30分毎に60円になります。また、ヤオコー所沢有楽町店のほうでは142台の駐車場、こちらはヤオコーやサイゼリヤを利用される方々が使われる目的の駐車場ではあるのですけれども、特に警備員がいたり、機械的な仕組みで規制等をしてないので、少なからずは買い物等の利用客以外の方も、例えば図書館に行かれる方も使っていらっしゃるかなと思います。そういった駐車場が隣に142台ありまして、繰り返しですけども市営の元町地下駐車場が123台あります。その中で、私どもが運営しているのが20分ごとに100円かかり、24時間駐めて600円と決して高くはなく、どちらかという安い有料の駐車場が30台ありまし

て、そこに月平均で1,547台の車に使っていただいています。何が言いたいかといいますと、安い駐車場や無料の駐車場が隣にあるのに、わざわざお金を払ってそこに駐めています。これはなぜかという、我々運営会社もしっかりとは把握できてはいないですけれども、やはり所沢市の中心市街地ですので、昔から人が住んでおり、道も市内では細いほうで、あまり広い土地がないので、路上駐車なんてとてもできる地域ではないと思います。土地には皆さんが密集して住まわれており、所沢駅から2kmくらいで、西所沢駅からも1.5kmくらいだと思います。友達の家に行く、営業に行くといった様々な理由で、その地域に車で行きたいという方々がいらっしゃって、そこに一定の需要があると捉えております。神明社の三が日の初詣の時とか、ものすごく利用が増えますし、月によっては7月とか暑い時期には1,300台くらいの利用と少なくなったり、また多い月があったりといった利用状況でございます。駐車場の利用について、もし何か御質問があれば、後ほど答えさせていただきます。

せつかくの機会ですので、私からも旧庁舎と文化会館の跡地に対する思いを述べさせていただきたいと思います。私も青年会議所に6年くらいおりました、私の時代は旧庁舎に青年会議所の事務所がございまして、そこにほとんど毎日のように伺いまして、確か3階だったと思いますが、地下から建物に入って、旧議場も例会として使わせていただいた本当に思い出深い場所です。これは突拍子もない意見として、一市民の意見と

すると、やはり旧庁舎を見ると私の中で思い出がたくさんありますし、改めてすごくいい建物だなと思います。外壁に全部ベランダがあって、その柵もＲＣでできていて、趣があってすごくいい建物だなと思います。もし可能なら、残せるものなら残してもらいたかったなとは思っております。

活用については、また青年会議所の話になってしまいますが、私も青年会議所にいた時に、今はエミテラス所沢になっている旧車両工場跡地の活用について、青年会議所としてどう考えているのかというところで、あそこを緑あふれる公園にしたらいいいのではないかと、セントラルパーク構想を市に提言させていただいたりしておりました。そのときに作った内容が、ニューヨークにはセントラルパークがあるように、都市には緑が必要ということで、旧車両工場跡地に緑があったら、広大な公園があったら所沢市の価値が上がるのではないかとということを考えました。やはり所沢のイメージはトロロというところで緑がありますが、駅を降りると意外と緑が少ないというか全然ないというところで、今回この旧庁舎と文化会館の跡地の活用について、中心市街地にまとまった緑、神明社から繋がる緑があると、一市民としては非常にイメージが上がるんじゃないかなと思っております。併せて、この地域にもできればある程度の規模の駐車場を作っていただけたらなと思っております。以上になります。

【参考人意見陳述終了】

【参考人への質疑】

末吉美帆子委
員

三芳参考人に伺う。個人的な話であるが、神明社と文化会館跡地の間に日刊新民報社というのが昔あり、道沿いに移転をしたが、当時はあの辺りにあった。こどもの頃、父がそこで働いており、遊びに行ったりした場所なので、非常に思い出があって、文化会館にも神明社にも思い出があるので、本当に懐かしく思いながら、文化会館と旧庁舎の後がどういうふうになるのか非常に関心がある。

先ほど、緑と水の話があったが、所沢の中で水というイメージがあまりないのだが、蜚が住めないかということを市民に言われたことがあって、あそこに蜚を何とかできないかと言ったら、けんもほろろに市のほうからそれは無理があると言われたことがある。空間として旧庁舎跡地をどのように考えているのか伺う。

三芳参考人

あそこは元々、東川もありまして、金山町のほうに一種の関所というかダムみたいなものができていて、そこを境に宮本町側の東川はすごく綺麗になっています。蜚の話で言うと、上新井は実際に蜚をやっていたりしていて、活動としては可能性はあるのかなと思います。実際、私も旧庁舎裏の川沿いをちょっと物事を考える時にふらっと散歩しますが、カワセミが来るくらいに水質は綺麗になっているので、水質として蜚はいいのかなと思います。

実際に私がどう考えてるかということですが、あそこはコストとのバランスでどこまでこういうものをつくったらいいのではないかと具体的に申し上げる立場ではないのかなと思っているのですが、例えば私たちは青年会議所で毎年、パシフィコ横浜に行くのですが、向かう前の最寄り駅のところにクイーンズという百貨店がありまして、そのビルとビルの間に水深がたった2, 3 cmほどで、川の長さでいうと、5 mから10 mもないような空間なんですけど、そこに親子がかなり集まっているのを毎年見えています。そこにいる人たちは多分、買い物をするわけでもないけど、ああいったコンクリートジャングルの中で常緑の木が2, 3本あって、その麓に川があるというところに何十組もの親子がちょっと10分休憩というような光景を見ていて、そういう規模感でも意味があるのかなと思っています。もっとそれが広がると、その来る人の数も増えてくると思いますが、具体的にどこまでの親水というのは私の立ち位置で考えるものではないのかなと感じています。

末吉美帆子委員

深井参考人に伺う。回遊性ということ言えば、私は以前に友人と歩いてみようと、深井醤油の辺りから、裏の様々な道を歩いたことがあり、本当に楽しくて良い道だと思って、秋田家住宅辺りから深井醤油くらいまでの裏道を散歩コースにできないものかと考えたこともある。それくらい楽しくて良い場所だなと思っているのだが、例えば旧庁舎跡地に所沢駅方面から来るとしたら、歩きだったり、何かしらの方法で来る。そ

こら辺の周辺整備も含めての歩ける場所、回遊性をどういうふう to 実現
をしたらいと考えているのだろうか。

もう一点、肥沼参考人に伺う。私達は委員会で、和歌山県和歌山市に
視察してきたばかりだが、視察をした場所が、使われていなかった広大
な地下駐車場があり、これをどうするんだと市が困っていたところ、民
間活用でその地下駐車場の上に公園を整備したという話を伺ってきた。
その公園がイベントとかでものすごく賑わっているわけであるが、それ
は地下駐車場とセットだから賑わった面もある。先ほど話があったよう
に、旧庁舎と文化会館の跡地の辺りは駐車場はあるけど、これ以上は増
やせないんじゃないかと思っていたのだが、もし三芳参考人が発言され
たように増やせる手立てがあれば、絶対発展すると思った。駐車場問題
について実現性があるのかも含めてどのように考えているのか。

深井参考人

回遊性について、私も近隣の不動産を持たせていただいている身とし
てもいろいろ考えているところもあります。まずは、ソラバルみたいな
形も一つの回遊性のあり方だと思っており、今は本当に力を入れてやら
せていただいているところであります。というのも、本当に賃料が高い
ところ、要はプロペ通りとかですと、結局チェーン店とかしか入れない
んですよね。しかし、それはそれでそれだけのお金を払ってでも出店し
たい価値がある場所なので、別にその敷居を下げろとは私は思ってい
ないです。元々、賃料を高く取れるまちなのに、わざわざ何か新しくチ

チャレンジする人のために安くしようと言ってやってしまうと、逆にバランスが崩れてしまうと思います。ただ、例えばソラバルとかがあることによって、せっかく飲食店を出すのだったら、所沢でも1年に1度こういうお祭りがあるから、新規のお客さんが来やすい環境はあります。あとは自分たちで自信を持って美味しいものを出していれば知ってもらえる環境があると思ってもらえれば、まず始めるきっかけだって他のまちよりも所沢は駅から遠くても人が来てもらえるきっかけをつくれるまちだと思ってもらって店を出してもらえればそれでいいと思います。多分、同じように回遊性をつくるためにはどこが先かになるかもしれないですけども、結局そこだったら人に来てもらえるだろうなというふうに思ってもらえる環境を少しずつでも広めていければいいのかなと私は思っています。

ヤオコーを誘致させていただいた身としてなのですけども、あそこをヤオコーに貸す話をする時に、4者くらいコンペ形式で募らせていただきました。賃料だけで決めているわけではないですけども、その条件を決めていく時に何が重要になるのかって、本当でしたら近隣にどれだけ人が住んでいるかをスーパーは大事にします。近隣に何があるかと言いますと、神明社があって、お寺やお墓があって、その時にはもう市役所は旧市役所としてほとんど撤退をしていたので、周囲何メートルと見ると大きなぽっかりとした穴が何個もある状態でした。その中でこうやっていくというよりも、旧庁舎は人が集まるような場所ですよと言え

れば、もしかしたらそういうスーパーとかだって、もっと条件の良い提案ができますよとなったかもしれない。要するにこぞって人が来られる環境というのは、鶏が先か、卵が先かだと思いますけれども、そのまちな近くが楽しそうだよねとか人が集まりそうだよね、ついでにうちにも来てもらえそうだよねというような環境を少しずつでも展開していかなないと、回遊性はつくりづらいのではないかと思います。そのきっかけに、どこが先になるかということも含めて、せっかくあれだけの敷地を有していて、それだけのポテンシャルもある場所だと思っていますので、そこがまず一つのきっかけになって、そこに人が向かってくるんだから、ついでにこっちまで人が歩いてくるよねとか、帰りに駅まで行く流れで盃横丁のところまで入っていくよねとか、そういった形で回遊性というのは自然とできると思いますし、その可能性を見いだして、また新しい方々が事業を展開したり、新しい面白い場所をつくり出していくことで、さらにまた回遊性が高まるというような循環が作れると思いますので、その循環をいかにつくるきっかけを作れるかというのは、あの場所はかなり大きな位置づけだと私は認識しています。

肥沼参考人

やはり人が集まる場所にはある程度の数の駐車場が絶対に必要ですし、現状あのような状況でも30台の駐車場があり、しっかりと収益が取れる程度に車が入っている。その中で、どのような整備をされるかわからないですけれども、人が集まるような仕組みや設備が整うとすると、

やはり一定数以上の駐車場は絶対に必要でしょうし、駐車場がなければ人が集まりづらくなってしまうだろうと思います。還元というところでいくと、我々は収益を求めていく事業をやっておりますけれども、その中で例えば公園だと、あまりお金を稼げない施設になってしまうのだらうなと思いますけれども、駐車場で収益を上げていく中で、その施設の維持とかに還元できたり、公園が盛り上がれば駐車場の稼働も上がりますし、そういったところでお互いにいい関係性になれるのかなとは思いますが。

長谷川礼奈委員

肥沼参考人に伺う。ところざわまつりの時にあの駐車場はどのような協力をされているのか。

肥沼参考人

あそこの駐車場はところざわまつりの期間、市長、来賓の方々が来られる駐車スペース及びところざわまつりで出たゴミを1か所に集めるためのゴミステーション、そして警察、消防が待機できる駐車場として、私たちがお借りする前からそのような形で使っていらっしゃったので、私たちがお借りすることになった後も同じように、いつから閉鎖して、どのような形でいつまで使われるということを商工会議所と話して、使っていただいております。

石原昂委員

深井参考人に伺う。所沢で企業のチャレンジができるまちにという話

があり、旧庁舎と文化会館の跡地に、信用保証協会や地域の金融機関が来て、そういう取組ができればいいと思うが、2020年くらいに狭山市でS a y a-B i z という無料の起業支援事務所を市がつくり、先に運動みたいなのが始まっていて、所沢としては悔しいなと思っているところである。深井参考人が今までまちづくりの取組で御覧になったそういう企業の支援策で、これは事業者として大変チャレンジしたくなるなとかそういった事例というもので何か具体的にイメージされているものがあれば伺いたい。

深井参考人

やはり事業をする上でというところで考えているのが、私が家業に戻る前は銀行で働いていたということもありまして、板橋支店と新橋支店の2店舗を経験をさせていただいたのですが、その上ですごく感じたのが板橋支店はどちらかというと企業が元々ある鑄造業の方とか歴史があるところが代々続いていくようなところでした。それに対して新橋支店が、例えばですけど官庁が近いからここでわざわざ起業するんだとか、広告業をやりたくて主要なテレビ局がある汐留や赤坂とかに近いから事務所を構えるんだとか、どちらかというと人が向かってくるようなまちでした。時代の流れが全然違うと言いますか、同じものを考えていても、こうやって展開していこうみたいなどんどん行動に移していくスピード感が、皆さんやっぱりそこに向かってきている人たちなので、私はどちらかというと代々続けている人なのですけれども、やはりチャレンジ精

神、ハングリー精神を持ってわざわざ故郷を捨てて来ている人がすごく多かったです。そういう人のほうがやっぱり活気もあるし、まちの切り替わるスピードも速いです。それが良いか悪いかは別として、文化を残しながらとかもすごく大事なところではあると思うのですけれども、その中でバイタリティを持って何かより良い変化を持つために変えていこうというような人々の力が集まるまちになったらいいなというのはすごく思っています。

だから、具体的に何をしたらというのはなかなか難しいですけども、そういった気持ちを持った人たちが、せっかく仕事をするのであれば、所沢でやったほうがいいよねというふうに考えて向かってくる場所になるということがすごく大事なのかなと思うので、そのきっかけとなるようなところが、例えばですけど、銀行で言えば保証協会とかそういうところが環境にないとなかなか最初の借入れをするきっかけもつくれないですし、そういったところも含めて何か手立てを考えられるような場所になればいいのかなと思い、意見させていただきました。

【参考人への質疑終結】

大石 健一 委員
長

この際、参考人に対し、委員会を代表して一言御礼を申し上げます。
本日はお忙しい中、本委員会のために御出席いただき、貴重な御意見を述べていただき、心から感謝いたします。本委員会といたしましては、いただいた御意見を今後の委員会調査に十分生かしてまいりたいと

思います。

休 憩（午前１０時５５分）

（参考人入替）

再 開（午前１１時５分）

大石健一委員
長

本日は参考人として、所沢地区民生委員・児童委員協議会会長の齋藤千里さん、無礼講プロジェクトの角田テルノさんにご出席をいただいております。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のためにご出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心からお礼を申し上げますとともに、忌憚のない御意見をお述べくださるようお願いいたします。

【参考人の意見陳述】

齋藤参考人

おはようございます。齋藤千里と申します。

まず、日頃の活動内容を含めまして自己紹介をさせていただきます。
住まいは、宮本町１丁目の神明社の宮の前にあり、夫の両親や兄弟と共に３世代で生活しておりました。明治時代までは宮の前にて、たばこ屋を営んでいた家であると聞いております。亡くなった義理の母は、旧庁舎の建つ前にその地で暮らしておられた向山家の皆様との交流もあり、生前その屋敷と庭の素晴らしかったことを何度も聞いておりました。縁

あって、この地に嫁ぎまして約40年、過ぎてみますとその半分以上を民生・児童委員として地域の方々に支えられながら暮らしてまいりました。現在は、所沢地区民生委員・児童委員協議会会長として地区全体52人の委員の皆さん、町内会連合会の皆さんと共に、日々地域の方々の住みよい暮らしのために活動させていただいております。

活動の主軸は、小・中学校児童生徒の見守りや高齢者の方の見守り、訪問活動ですが、地域の実情を把握し支援する目的のもと、子育て広場や小学校学習ボランティア、放課後児童支援、こども食堂、フードパントリー、高齢者のための介護予防教室の運営と活動は年々多岐にわたってきております。また、母の活動を引き継ぐ形で、所沢婦人クラブ・更生保護女性会に入会し、会員として地域の女性の皆さんと、人権や男女共同参画・消費者活動についての学習を続けながらその絆に支えられ、諸先輩方から学ばせていただく毎日でございます。

旧庁舎及び文化会館跡地のポテンシャルについてということでございますが、日々の活動の拠点となっておりますのは、所沢まちづくりセンターや町内会の公民館、男女共同参画推進センターふらっとなどです。

また、乳幼児を含む子どもたちと触れ合う場所としては、ひばり児童館や明峰小学校内の明峰児童クラブもあります。

そのため、日頃の活動の中で感じていることを少しお話させていただきます。

まずは、子育て支援として月に1回、まちづくりセンターを会場に約

25年前からゼロ歳、1歳のお子さんをお持ちの父母を対象にした子育てオアシスというこども広場のスタッフとしてお手伝いしています。

孤立した母子の密室育児が問題視され始めた頃から始まり、なんとか若いお母さんたちに楽しく育児をしてほしい、お母さん同士が繋がってほしい、その手助けができればということで、地域の保育士経験者も交え更生保護女性会の協力も得ながら活動しております。毎月20組から30組の母子が集まります。手遊びや童謡、紙芝居や絵本の読み聞かせなどを通してゆったりした時間を過ごしてもらい、お母さん同士のフリートークの時間はとても人気で、公民館事業として開催されてきました。予約受付日には即満員になってしまうほどの盛況がずっと続いており、アンケートには毎週やってほしいとの声が届いております。泉町にこどもと福祉の未来館ができてからも、そのニーズは変わらずある現状です。そこに集まってくるお母さんたちは、銀座通りに林立するマンションにお住まいの方たちはもちろん、周辺地域から車やベビーカーに赤ちゃんを乗せて集まっています。話を聞くと、同じマンションに住んでいても顔を合わせることが少なく、子育てオアシスに来て初めて顔を合わせたとか、小児科はどこがよいか分からないなど、転入してきて間もない方が地元の方との交流がないことで苦労されているお話を聞きますと、お母さん自体が話し相手を求めていることがよく分かります。

事業を始めた頃はそこでの出会いからお母さんたちの自主グループができたりしましたが、時代も変わり、サービスを受けることを求めてく

るお母さんたちのほうが増えています。しかし、夜泣きや離乳食等の分からないことは、なんでもスマホで検索したり、SNSを育児の頼りにしているだけでなく、地域に一步踏み出してきてくれるお母さんたちをなんとか支えたいとセンターの職員共々、毎月のプログラムに工夫を凝らしています。

また、まちづくりセンターを利用して日々眺めている風景ですが、学校の放課後時間になると、センターのロビーの机と椅子が置かれているコーナーは小・中学生でいっぱいになっています。何人かで集まって宿題をやる子、カードゲームに興じる男の子たち、ジュースを飲みながらおしゃべりするこどもたちなど、とっても楽しそうに時間を過ごし、こどもたちの居場所になっています。しかし夢中になるばかり、そばにいる高齢の利用者に配慮できずに席を占領してしまうこともあり、まちづくりセンター職員は、優先席を設けたり常に全ての住民のよりよい利用方法の周知に頭を悩ませているのが実情ではないでしょうか。

昔はお互いに友達の家を集まって自然に過ごせていたことが、共働き世帯の増加によりできなくなり、地域にこどもたちの居場所が少なくなっているのではと感じます。天気の良い時には、ハーティアの広場にも近隣からこどもたちが集まり、追いかけてっこをしたり、自転車の練習をする親子、夕方から夜になると高校生、大学生と思われるダンスグループが建物のガラスに自分の姿を映しながら夢中でダンスの練習をする姿も見受けられます。そういった姿を見るにつけ、児童館や公園、図書館

等既存の施設以外にも、気軽に集える場所の必要性を感じています。

乳幼児を抱える若いお母さんお父さんたち、放課後に居場所のない小学校高学年のこどもたち、先生方の働き方改革で部活の時間が減り、塾に行くまでの時間を過ごす場所を求める中学生、仲間との時間を共有したい高校生、それから様々な活動にいつまでも元気に関わってほしい健康な高齢者の方々等、多世代の方が気軽に集える場所が求められていると感じます。個々の人が思い思いにいられる場所が必要なのではないでしょうか。

また、地域でこども食堂やフードパントリーに関わってみて思うことは、旧町内は他地区に比べると生活保護を受給する世帯数が多いとはいえませんが、やはり地域のつながりは昔より希薄化しており、核家族化の中で共働き家庭で個食を強いられているこどもたちは潜在しており、心の病を抱える家族も増える中で食支援、学習支援を必要とするこどもたちが見えづらくても一定数いること、またシングルマザーの方々が低所得の中でも頑張っており、毎月の食料支援の日に集まってくる世帯数は90世帯、100世帯にも到達しようとしています。ボランティアで運営されているフードパントリーは市内各所に増えておりますが、どこも様々な補助金を活用したり、寄付してくれる企業さんからの食料を集めることに四苦八苦しています。所沢地区では、保健センターの保健師や、所沢市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの方と連携しながら、なんとか支援の方法を見つけていますが、そこに集まる親

子がちょっとでもゆっくりできるスペースがあったらといつも感じています。

また、神明社奉賛会女性部理事としては、神明社の年間行事にも協力させていただいておりますが、コロナ禍を経て、この数年間で神明社境内で行われているイベントも様変わりし、若い世代の方々がたくさん集まってきています。一体どこからこんなに集まってくるのだろうと地元の人間としては不思議な気持ちでいますが、そこにはSNSでつながった方々が集まる仕掛けがあるのかもしれません。

今年の秋は、ところざわまつりも5年に一度の2日間開催でした。正直、婦人会役員として町内会と共に関わらせていただきましたが、高齢化が唯一の悩みとなっています。参加してくれるこどもたちも年々減っている現状もあります。そこに、なんとか若い世代、こどもたちを取り込んでいくには、伝統を守りつつも集まってもらう仕掛けの工夫が必要なのだと思います。それは、市民フェスティバルでも感じました。雨天にも関わらず多くの人出がありました。高層マンションが増え、民生委員としては高齢者の見守り活動に大変苦勞している現状があります。まだまだ旧町内にしかない地域のつながりも残っている地域です。そんな中で、旧庁舎や文化会館は地区の中心地として様々な方が跡地利用に関心を持ち期待しています。

それは、昔からまちづくりセンターや図書館分館、ハーティアなどの広場が集まる拠点として定着していること、また神明社という広い境内

とともに古くから季節の節目には家族で訪れる場所として心の拠り所となってきたこと、また深井醤油店の跡地にできたマーケットプレイスは高齢者にとっては歩いて行けるスーパーで、気軽に飲食できるレストランはファミリー層にも人気であることなど、旧町市街地の活性化のためにも大きなポテンシャルを内在していると思います。

そこで、神明社の杜の緑と一体化するように、高層な施設ではなく緑いっぱい、災害時の拠点ともなるような公園と低層の施設ができることを希望します。

そこには、いつでも低額でだれでも利用できるカフェや広場、こどもだけでも利用できる漫画・コミックコーナーなどがあるといいなと思います。認知症や障害があっても利用できる地域食堂などに開放される場所も必要であると感じます。

また、乳幼児をもつ親子や元気な高齢者、小学生などが集い運動できるようなスペースもあったらと思います。現在は、子育てオアシスでお母さんを対象としたヨガ教室や高齢者の健康体操など、全てまちづくりセンターのホールを利用していますが、場所の確保が大変です。また、酷暑の中で各小学校の屋外プールでの授業ができなくなっている状況を見るにつけ、多世代で通年使える屋内プールがあったら、有効活用できるのではないかと意見も届いています。

高齢化の進む中、新しい認知症観に基づいていつまでも地域で暮らしていけるまちづくりをしていくためにも、障害を持った方々とともに営

む認知症カフェのニーズも増えています。公設民営の形で、地域の若いお母さんたちも取り込んで、多世代交流ができたらと夢に描いています。質の高い空間で日常的に人が来る場になれば、周辺におのずとよい店や場が出来てくるのではないかと考えます。

また、もう一つの希望は、この辺りは古く河原宿と呼ばれる東川流域の低い土地のため、たびたび洪水に見舞われてきました。河川改修により、1時間当たり50mmの降水量までは地下河川が活用され、浸水頻度が減ったのも事実ではあります。しかし、都市化と気象の変化により、内水反乱の危険性はなくなっておらず、線状降水帯発生ニュースが流れると常に雨雲データと河川カメラから目を離すことができない状況にあります。

もしも可能であれば、建物解体後には災害時にも活用されるような地下貯水池等の建設も考慮していただきたいと思います。

解体が始まるのは、令和10年頃になるのでしょうか。それまでの期間についてもお願いがございます。

通行人のゴミが投げ込まれることを防ぐためにも、定期的な除草、解体前にはネズミやハクビシン、タヌキなどの野生生物の駆除に対しても配慮いただきたくお願いします。

角田参考人

おはようございます。角田テルノと申します。私は無礼講プロジェクトという名義で活動しています。

無礼講プロジェクトの活動内容ですが、神明社で神明宵の市というマーケットを毎年8月6日、7日、8日に開催させていただき、その実行委員会の名称を無礼講プロジェクトというふうに呼んでおります。

神明宵の市のお話をさせていただきますと、もともとは私が古道具やリサイクルの仕事をしているのもありまして、神社の境内で骨董市のようなものができたらいいなという思いがふとよぎりまして、勇気を持って、神明社にアポイントを取りまして、骨董市みたいなのをやれませんかねというような相談をさせていただいたときに、三芳さんたちが話を聞いてくれて、「骨董市はいいよねと。ただ、神社のほうの年中行事であります七夕祭の時に、あまり賑やかなお店とかが出てない状況というのもあるので、骨董市もいいけど、七夕祭の時に一緒に何か市を開いたりする方向はどうか。」と逆に神明社のほうから話をいただきました。せっかく神社で何かするのであれば、神社で何かできませんかと相談しようと思った矢先だったので、逆に、既に年中行事で行っています七夕祭に便乗できるような形で、まちの人間がそこに便乗するような形になるのはすごく美しいなと思って、すぐにその形でやらせていただきますということで、始めさせていただきました。

その上で、七夕の時に市を開くのであれば、ちゃんと七夕にまつわるコンセプトに変えていこうということで、そこから改めていろいろ考えていく中で、ずっと伝統的に行われているものに私たちが混ざっていくところで、伝統現代解釈できたらいいなということで、少しずつコンセ

プトを固めていきました。

まず、今から一緒に伝統をつくっていくことはできませんかねとまちに投げかけることにしました。

今から始まるお祭りは突発性のマーケットとかイベントとちょっとニュアンスが違い、100年も400年も続いていく、まちの人に愛されるような行事にすることはできないかなというのを、まずは友達とか、地域に繋がりのある方とかに話すようにしていきました。

そして七夕ですので、1年に一度でもいいから再会できる機会になったらいいなというコンセプトをつくりました。

これは所沢が地元だった人が、仕事の都合や家庭の事情で全国や世界のいろんなところに引っ越してしまったりする友達も実際にいましたから、そういう人たちが、1年に一度でもいいから地元に帰るきっかけになってくれたらいいよねというようなコンセプトもつけました。それと遊び心を持って伝統を現代解釈しようというのが、宵の市のみそみtainなところになっているのですけれども、神社では前から、例えば七夕になりましたら吹流しのような装飾だったり、雅楽の演奏だったり、伝統的なコンテンツを用意して、まちのみんなで故郷体験を産みまして、願い事を一つにして何か平和を願うとかそういった形で、はるか昔からやっていたのですが、それを、今だと電気があるじゃん、昔は電気がありませんでしたから手作りの装飾や雅楽、生の音で演奏をしたりしていたと思うのですが、もし1,000年前に電気が通っていたらエレキ

ギターを鳴らしているかなとか、プロジェクターとか使って映像出していたかなといったような、少し遊び心を持って、七夕を現代解釈してみようということで、実際に宵の市では見方を変えるとフェスをやっているなんていうように言われたりすることもあるのですが、こっちはフェスをやっている気持ちはないのですけれど、そういったエレキの音が流れたりとか、そういう映像が流れたりとかするようなお祭りになってきました。

出店者は行商の方々もちろん好きですけど、いわゆる行商のよく見るお祭りで見ると人たちはなくて、ローカルの個人店の人たちに1軒1軒回って、この日だけでもお祭りに出してもらえませんかと言ってお願いしてもらって出してもらっています。

音楽や装飾を担当してくれる人たちは地元の方たちにも声掛けはしますが、できるだけ全国や世界で活躍するミュージシャンや、装飾をする方をデコレーターと呼んでおり、その方に声掛けしたりしています。フジロックフェスティバルに出ている人とかも、なるべく予算に合う限り声かけています。

これは所沢というキーワードを外に発信するのに必要なことだと思ってやっています。

1年に一度でも帰ってこようと思ってもらうためには、所沢の中だけで発信していてもなかなか届かない。どうやったら所沢の外にその声が届くのかを考え、ある程度外からの文化も入れながらつくっていくこと

を目指し、9年間続けることができ、また来年も開催します。

この中で一つ私が今でも感動しているきっかけというのは、骨董市をやりたかったことをきっかけに、小さな自分の中の勇気を持って水面に小石を投げたところ、そこに反応してくれた神明社が、こういうのはどう、ああいうのはどうと言って波紋が広がり、それをきっかけに私は今ここにいます。小さな勇気を持ったおかげで、自分の想像もしていなかったような未来まできているということは、私の中で大事なきっかけで、そこで門前払いというか、うちはこういうルールだからできないよとか、そういった対応をされてしまったら、恐らく私はまた全然違う人生になっていたのだろうなと考えたりします。

その上で、旧庁舎の辺りをどうやって活用していくのがいいのかなという話ですが、もちろん福祉とか教育の文脈もあると思います。とても重要で、それについてもぼんやり素人ながら考えるのですけれども、今回文脈的にはおそらく宵の市から、文化とか、そういったところのニュアンスになるのかなというふうに思います。

今駅前開発がかなり進んで、生活の利便性が上がっていく時に、どうやってこの後、まちの人たちがシビックプライドを持っていくのかというのを考えてみました。

その時には、便利だけでは駄目なのではないかと、まちの人もグルメになってきていますので、便利になっている刺激だけでは他のまちと比べたときに、あっちのほうがもっと便利だよねとか、そういった比較

になってしまうのではないかなというふうに思っております。そのため、そういったときに利便性だけではなく、住民がその文化を感じるということのは非常に大事です。あるいはその文化を発信できるような環境づくりがされていることがすごく大事なのではないかと思っております。

そういう意味では所沢市民文化センターミュージズがありますが、所沢市民文化センターミュージズはスケールがでかくて、立派な人たちがいっぱい来ます。あるいはすごい大所帯の人たちが参加できるような施設で、とても重要な施設ですけれども、私の思い描くような文化施設というのは、所沢市民文化センターミュージズのスケールよりももっとコンパクトで小回りの利くようなところをイメージしております。

他にも都市計画課のグランドデザインのニュアンスだったりとかウォークアブルシティをつくっていかうとか、そういうキーワードが出てきたりとか、駐車場の活用とかもありましたが、グランドデザインやウォークアブルなまちづくりという意味では、所沢駅からファルマン通りを抜けて、銀座通りを通って西所沢に歩いていくような、あの辺りに人がずっと歩いていくような光景、そこの人通りを増やすためにまず拠点として、金山町と旧庁舎のところが文化的なポイントとしてあれば、そこに向かう人がいます。旧庁舎、金山町に寄って西所沢に行くような流れがつけられるのではないかと想像した時に、非常に重要な拠点だと、旧庁舎の部分を見て思います。そういう意味では、そこがどんな場所になったらいいのかなというのを、宵の市を通して感じたところでもあるのですけれ

ど、所沢にはアトリエ的に住居を構えていて、活動を東京で行う方が結構います。

三ヶ島とか牛沼とかそっちまで広げると、本当に広い土地に何かの作家がものづくりをしていて、東京で個展を開くとか、そういった方も実際生活しているのも見てきましたし、あるいは普通にファミリー層として生活拠点として過ごしている中で、少し子育てが落ち着いてきたような方々が、次に何か自分でもものづくりをして発信したいなという方だったりとか、新しいファミリーだったらこどもを通してのコミュニティじゃなくて、自分の何か発信したものでつながるコミュニティを求めている方とかとも出会うようになりました。

そういった意味では旧庁舎の場所が何か発信できるような拠点になったらいいなというふうに思います。

具体的なのはもちろん、アウトラインができてから詳細はいっぱいありますが、まずはそのまちに住む人たちが自分の発信したいことを気軽に発信できる。そして先ほどインキュベーション機能もあったほうがいいというようなニュアンスもありましたけど、そこに大きな企業の方たちも参加できたりするとか、あるいは何か知恵を持っている方々が、そこにも混ざってこれから何か始めようと思う人が、気軽に始められてかつ知識を持ったプロの方々とも接点が生まれるような施設、ずっと昔からそういう多目的施設とかあったと思うんですけども、それすらも現代解釈していくといえますか、簡単に言うと、今公民館では商売ができ

ないので、例えばそういった部分で少し何か商売に繋がるような、でも公民公共性があるような場所というのは、もしかすると現代解釈っぽいのかもしれないとかそんなふうを考えております。

駐車場問題は宵の市をやっている本当にそう思います。車を駐められないというのは本当に大変で、駐車場ができたらいいなというのはやはりつくづく思うのですけれど、そこに私なりのエッセンスを入れるとすればその駐車場すら貸しきりたいと思ったりします。

分かりやすいところでいうと、大井競馬場は海外からも人が来るくらい巨大なフリーマーケットを開催していますけれども、そこはもともと競馬場の駐車場であり、そこが使われてないときに、駐車場ごと借りて、車につけて、車の中から荷物をすぐ隣に出してフリーマーケットをする。こういうような駐車場すらもつくって、さらに2次利用3次利用みたいな柔軟性を持ったものができたりすれば、私はプロレス好きですから、駐車場で青空プロレスなんていうのも想像したりしますが、そういうような誰かが何かしたいと言った時に、この受け手側の器が、「こういうことが逆にできるよ」、あるいは「それいいねやってみよう」と誰かの勇気を後押ししてくれるような、私が神明社と付き合い始めた時に起きたようなそういった柔軟性を持った文化施設みたいなものが造られれば、少しまちが豊かになっていくようなイメージを私個人としては思っています。

【参考人意見陳述終了】

【参考人への質疑】

入沢豊委員

角田参考人に伺う。ミューズは大きすぎることであり、もっとこぢんまりとした施設で文化の発信をしていくものだと思うが、近くには中央公民館のホールもあるし、部屋もあるからどこでも発信はできる。一方で商売ができないため、商売もできるこぢんまりとした施設で文化を発信していければといった認識でよろしいか。また、例えばそういったことを実施している先進事例があったりするのか。

角田参考人

そのとおりです。商売が出来てコンパクトな場所なのですが、どんな場所があるか考えてみると、鉄道会社が沿線の魅力づくりをする時に、沿線上にある使われていない施設とかを改造して、民間の方に何かやってもらおうとしたりしますが、よくうまくいっているなと思う事例は、過疎地の開発でいうと、広島県広島市にあるミナガルテンという場所は、まちの人たちが過疎地の使われていなかった倉庫を例えばパン屋が入って「この日はパン屋さんが来るよね」とか「この日は音楽イベントがあるよね」みたいなことをやっている場所がありますが、もともとは行政や地域がどうやったら盛り上がるか、過疎地になっているところをどうしていくかということから話が始まっているような場所で、事例としては面白いと思いました。事例として挙げるとしたらミナガルテンになりますが、同じような施設を造ったほうがいいとは思ってではなくて、実際

に公民館で商売が出来たらいいなというシンプルな考え方であり、広くて優しく柔らかい間口があって、その中で自分の作ったものを売っていいと言ってくれるだけでありがたいなと思うくらいのニュアンスなので、当てはまる具体的な事例が出せず申し訳ないのですが、アウトラインとしては入沢委員が考えていることで間違っていないです。

末吉美帆子委員

角田参考人に伺う。駐車場が非常に重要であるといった御意見だが、先ほど三芳参考人から土地を売り渡すこともやぶさかではないとの話もあったが、駐車場が旧庁舎跡地利用において非常に重要だということが改めて分かった。現在の駐車場の利用状況については、先ほど肥沼参考人から話を聞いたが、私は駐車場の整備は必須だと思うが、それをどちらかというと普段は違うことに使えるような駐車場がいいなと漠然と考えており、それをだれがやるのかというのはよく分からなかったが、例えばそこについて、非常に大きなイベントがある時は大きな駐車場として利用し、それ以外の時は違う使い方をするというポテンシャルとかはあるのか。

角田参考人

普段使いのポテンシャルについてはサイズにもよりますが、いろいろできると思います。例えばプロレスですかね。他にも一つの屋内では部屋があってそこで何か音楽をやりたいとか、シェアキッチンみたいなものを造って、そこでこども食堂みたいなことをやりたいとか、

そういうような建物の中でできることと、もっとライトに外で子育て世帯がマルシェやワークショップをやりたいとか、屋外イベントを全体のイメージとしてやりたいと思っている方もいますので、日常的な使い方としてあるとしたら、簡単なことしか言えませんが、半分は駐車場として、半分はマルシェを試みようとか、ある程度切り分けてサイズを柔軟に変更できるという意味では、日常使いでも可能なのではないかなと感じております。

末吉美帆子委員

齋藤参考人に伺う。既存の公共施設を使つての取組について非常によく分かった。先ほど角田参考人がお話しした、外を使つての様々なことについて、居場所がもっとあったほうがよいという立場から屋外の整備ということについてどのように考えているか。

齋藤参考人

どちらかという、民生委員の団体としては、既存の公共施設をどのように使っていくか、どうしてもそこから抜け出せないというところがあったのですが、実際旧町内で行っているフードパントリーについては、地域包括支援センターにも店舗を貸していただいている方が個人のお店の一部分でたまたまテラスのある場所を活用させていただいていますし、現在進行中の件ですと、社会福祉協議会に遺贈された空き家をどう活用するかということで動き出したりしていることもあります。子育てオアシスに集まって来るお母さんたちも、若い方は屋外でやるイベント

とかに抵抗がないというか、どんどん外で友達を見つけていきます。SNSでつながっていくことに抵抗感がないのだなということを日々感じています。常設の建物内でやることも大事ですが、旧庁舎跡地に柔軟性を持った様々なイベントをしたり、集まれる場所ができると、そこにはもしかすると車椅子を使った障害者の方も利用できるようになるでしょうし、すごく私たちも委員活動を飛び出して、いろんな地域の方とつながれる場となるのではないかなと、明るいイメージを持っています。

大石健一委員
長

この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条第1項の規定により、副委員長と交代します。

長谷川礼奈副
委員長

それでは、委員長の職務を行います。

大石健一委員

角田参考人に伺う。神明宵の市が8月6日、7日、8日の3日間開催され、非常にぎわいを呼んでいるが、駐車場の件も分かりましたが、今後、どういうふうを考えているのか。例えば、やっぱり旧庁舎と文化会館の跡地の一部が公園となった時に、どんな活用ができるのかといった夢みたいなものがありましたら、どのくらい広げられそうで、どのくらい人が集まりそうだとかを語っていただければと思います。

8月6日は前夜祭のようなものでして、七夕祭が8月7日で、これが本祭というか重要で、8月8日は後夜祭という感じで宵の市を開催していますが、8月7日が祝日になったらいいなというのが夢です。

一応、400年たった後のことを考えていますが、毎年、それには恐らく神明社だけではなく、例えばプロペ商店街、ファルマン通り商店街、銀座商店街などの様々な商店街や、もちろん大人から子どもまでまちなかの人が、400年後くらいには、8月7日はうちの地域はそういうもののなんだよねというニュアンスに変わっていったらいい、その時には旧庁舎と文化会館跡地にも広場があって、恐らくその規模まで広がっていくと、無礼講プロジェクトという実行委員だけでコントロールできないものにはなっていくと思います。

元旦みたいなものだと思うのですが、その時にいろんな人がいるプロペ通りで宵の市をやろうとか、銀座通りの宵の市をつくってみようとか言った時に、旧庁舎の跡地とかで何か団体なのか、地域の人たちなのか、そのくくりは分からないですけどそこでも、この日は地元に戻って、みんなでお店を出してみるとか、そんなふうにしてまちなかの宵の市の日に何か気持ちを向けられるようになる、そんなきっかけで神社に近いところから広げていくではないですけど、神社、旧庁舎、元町コミュニティ広場からタワーマンションの前、プロペ通りみたいに神社から波及されていかなきゃいけないと思いますので、旧庁舎の跡地がどう活用されるかによっては、何年間以内には旧町地区で他の地域の人たち

も一緒に宵の市のときはみんなで集まってやろうみたいな空気になれば、ゆくゆくは祝日までいくんじゃないかなとそんなような夢を語ってみました。

大石健一委員

齋藤参考人に伺う。旧庁舎と文化会館の跡地には何ができるか分からないが、市のほうで現在サウンディング型市場調査を行い、にぎわいづくりをしようとしている。定期的なイベントとかはいいと思うが、たくさん人が来てしまうと日常生活に影響を及ぼすと思うので、その辺の渋滞状況や環境状況とかで懸念されていることがあったら教えてほしい。

齋藤参考人

私自身は本当に神明社の宮の前に住んでおりまして、車の渋滞のことですけれども、ヤオコーができる前には我が家の前が一方通行なので、もしもそこに車が本当に滞ってしまったら、大変なことになるなということで、説明会に参加させていただいたりしたんですけれども、できてみますと、思ったよりも車でいらっしゃるよりも、買い物には近隣の特に高齢者の方は徒歩、あるいは自転車で来られる方がたくさんいらっしゃると思っています。

それは拠点があって目的があるので、そこまでだったら歩いて行けそうというような方が来られているのかなと思います。

あと、エミテラス所沢ができてからは、峰の坂交差点からの下り坂と、ヤオコーの前の道は、時間帯によってはかなり渋滞をしており、我が家

から一方通行でなかなか出るのが難しいという状況があるので、本当に先ほどから御意見がいろいろ出ていますが、どこに駐車場を造るか、どういうふうに車の動きを考えていくのかというのは重要な視点になってくるのかなと思います。

ヤオコーができる時にもこどもの通学時間帯には警備員を増やしてほしいというような要望もさせていただきましたけれども、地域の人間も見守りにスクールガードリーダー等が出ていますので、大きな事故も今のところはありません。

ところざわまつりの時は通行規制をしてしまうので大丈夫ですけども、普段事故がなく過ごさせていただくには、やはり人の動きを考えつつ、その車をどこに駐めるかとかは、近隣に住む者としては十分考えていただきたいなと思っております。

長谷川礼奈副
委員長

それでは、委員長と交代します。

中井めぐみ委
員

齋藤参考人に伺う。児童から高齢者まで、幅広く付き合いがあるかと思うが、旧庁舎と文化会館跡地について、付き合いしている方々から何か御意見があったら教えていただきたい。

齋藤参考人

やはりこどもたちの実態を見ますと、集まる場所がなく、それを

補うような形で所沢まちづくりセンターのロビーが居場所になっています。そういう光景を見て私たち民生委員だけではなく、公民館を常に利用している地域の方からも、ロビーがこどもたちに占領されてしまっているというような声が寄せられている。でもこどもたちも、ほうかごところを利用できるこどもばかりではありませんし、学童はもう定員がいっぱいになっていますので、放課後を1人で過ごすこどもたちはやはり友達を求めて集まってきているのだと思います。

やはり気軽にこどもだけでも集える場所、図書館はありますけれども図書館というのは原則静かにしていなければいけないところであり、小さなお子さんを連れたお母さんたちに午前中は開放されてきておりますけれども、本が好きな子ばかりではありません。以前テレビで、どこの市か覚えてないですけども、その地域の公共施設ではないところに漫画やコミックを自由に読めるところをつくったらそこにこどもたちが自然に集まっていました。それは大人の見守りも必要ではあるとは思いますが、秩序があって、こどもたちがとても過ごしやすい場所ができて、そこに大人も集まる、障害者の方の経営するパン屋もできてというようなところが、地域にも増えていると聞いておりますので、やはり私が考えるにはこどもの居場所、それから、介護保険制度もいろいろ変わってきていて、認知症の方が最後まで地域で暮らせるまちづくりというものが、もうここ二、三年ずっと考えられてきておりますので、そういうことを含めて考えると高齢者の方と接していて、やはり皆さん最後まで家

で過ごしたいという望みが多いので、それをどう受けていくかという、やはり認知症であっても気軽に集える場所、そこには地域の方がボランティアやいろいろな形で支える場所、居場所というのが求められていると日々感じております。

【参考人への質疑終結】

大石健一委員

この際、参考人に対し、委員会を代表して一言御礼を申し上げます。

長

本日はお忙しい中、本委員会のために御出席いただき、貴重な御意見を述べていただき、心から感謝いたします。本委員会といたしましては、いただいた御意見を今後の委員会調査に十分生かしてまいりたいと思います。

休 憩（午前11時57分）

（参考人退室）

再 開（午後1時15分）

大石健一委員

本日は参考人として、とことこまちづくり実行委員会の田畑大介さんにご出席をいただいております。

長

本日はお忙しい中にもかかわらず、本委員会のために御出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心からお礼を申し上げますとともに、忌憚のない御意見をお述べくださるようお願いいたします。

【参考人の意見陳述】

田畑参考人

田畑大介と申します。私は昭和29年8月12日生まれで、現在71歳です。職業は冷菓卸業とって、アイスクリームの卸業でしたが、うちの地区は全部所沢市東町第1種再開発事業になってしまいまして、私の跡継ぎもいなかったなので廃業しました。

現在は日栄会の理事長を21年務めております。それから、所沢商店街連合会副会長と、とことこまちづくり実行委員会委員長、野老澤町造商店理事をしています。

その中で、この日栄会というのは、所沢日栄会協同組合の略称で、昭和27年に設立されています。日栄会は所沢プロペ商店街振興組合と所沢ファルマン通り商店街と所沢駅西口周辺の個人店を中心に結成された商店街で、昨年度よりグランエミオ所沢テナント会、エミテラス所沢テナント会にも会員になっていただきました。

ただ、いわゆる協同組合法だと、大型店は組合になれないので、特別会員という形でなっていており、現在会員数は175店です。

まず、ざわ神輿ですが、ところざわまつりというのは40年近く前ですけれども、山車祭りだけで他に何もありませんでした。それで、私がこどもの時は毎年やっていたのですが、交通事情で5年に1回しか開かなくなって、その区間は商工祭とって商店街がいろんなイベントをしました。

そして、所沢は現在、旧町地区で多くのイベントを開催していますが、
当時はところざわまつりと盆踊りしかなくて、本当に寂しい祭りで、私
のこどもが小学校1年生の時にところざわまつりの本祭があつて、この
子が次に祭りを経験するのはもう小学校6年生になってしまうので、多
分もう祭りにはでないかなと思った時期がありまして、その中で、私も
若かったので、山車ではなくてお神輿をやりたいなということで、平成
3年に男ばかりの祭りではなくて、女性とこどもたちの中心のまちとい
うのを日栄会が提案しようということで、こども神輿と女性神輿という
のをつくりました。

この女性神輿は今もやっており、37年くらいたちますが、その当時
の方と今でも付き合いがあり、そのこどもがまた入ってくれたりして、
良い意味で好循環しています。

伏線にこれがあつて、ざわ神輿をやったときに、変な神輿がくつつい
ていて、これは何か怪しいなと思っていましたが、その方は当時、コン
セールタワーにお店を出していた方がお神輿を作っていて、その方の奥
さんが私の同級生だったというような状況でした。

続きまして、1994年に日栄会に入ったらすぐに近代化委員長にな
り、日栄会が当時発行していた冊子のN i c h i e i M A I L N o .
109に当時コンセールタワーを造っている写真を掲載していたり、旧
町地区を再開発していこうと所沢市が考えており、それに沿っていろい
ろ開発していこうという記事が掲載されていました。

それでこのときにコンセールタワーが最初あったのですけども、このまま計画通りいくと、もう10年先は1万人くらい旧町地区で人口増になってしまう。それで、その前は何でこういう計画ができたかという、所沢市は若い人がいなくなってしまっ、人口の空洞化と言われていました。

私もこういう人を呼んでくる計画は非常に賛成でしたが、新しいまちづくりよりも、まちが元々あるのだから、外から来た人と一緒にやっとう方がいいのではないかというのが私の思いでありました。新しいまちというのは元々コミュニティがなかった、地域コミュニティはまず崩壊しています。ただ、地域コミュニティの中でいかに新しく来た人が融合していくかというほうが、地域コミュニティというのは、比較的簡単にできるのではないかなという思いで、今から30年前ですが、コンセールタワーがまずできました。そのときに、先ほどのコンセールタワーにお店を出している方がお神輿と太鼓をやっていたので、一緒にやってくれないかというような話があって、そこで始まったのがタワー祭りの前身です。そのうちに、スカイライズタワーができ、グラシスタワーができて、このグラシスタワーは私も建設に深く関わっていましたが、その3つのタワーでタワー祭りをやろうとなったのが名前の由来です。

常に新しく来た方々と地元住民の融和というのを一番の念頭においていました。

それでタワー祭りは続いていきましたが、このタワー祭りが本当にできなくなってしまうのではないかと思ったのが、震災の時でした。

2011年の東日本大震災の時に、タワー祭りは5月に開催しているのですが、4月の時点で、なんでこんな時にイベントをやるのかとさんざん言われました。ですが、こういう時こそ寄付金を集めたりすることができるのではないかと思います。

ただ、みんなやってくれなかったのですが、野老澤町造商店の方が1人手伝ってくれました。

そのときは、協賛金を募ると60万円くらいすぐに集まって、この年に一番お金が集まったと思います。

私も野老澤町造商店に恩を受けたので、そのとき私もホロツときて、次のイベントの時くらいは手伝うと言ったら、私が全部手伝ってくれると思ってしまって、その後、深みにはまってしまったのですけれども、それなら、日栄会に所沢プロペ商店街振興組合、所沢ファルマン通り商店街が傘下にいるので、所沢銀座商店街もいれて4つの商店街で委員会をつくって、地域全体を活性化しようかということで作られたのが、とことこまちづくり実行委員会でした。

目標としていたのが、ところざわまつりとあと四季折々のイベントを開催して、それが大きく成長したら、その間も埋めていこうという考えで、まず、夏が野老澤行灯廊火、そして秋がところざわまつり、冬がサンタを探せ！、早春のイベントとして野老澤雛物語、そして春がとこと

こタワーまつりというイベントを立ち上げました。中心市街地活性化拠点として、野老澤町造商店が本当にキーポイントになったと思っています。

まずイベントについてですが、タワーまつりは所沢駅から元町コミュニティ広場まで1 k mあり、その中で所沢を回っていただいて、まずはお店を知っていただき、お店の前にクイズを貼って、お店を見ながら回っていく。そして、お店発見の祭りにしたいなと考えました。

そして野老澤行灯廊火は、私がやったときに、ちょうど神明社の宮司さんが私と大学の時に同級生だというのが分かったので、話を持ちかけたら、うちを使っていいよと言っていただいて、それで神明社の境内に行灯を飾ったら非常に良い雰囲気になり、これいけるなと思ったのですが、いざやってみると混みすぎてしまい全然風情がなかったのですけれども、これもいろんな意味で発見があったのではないかと思います。

ただ、当時は人口が増えてきて、神明社を知らない人も増えてきている。やはり市民に知っていただきたいという意味では、こういう場所を会場に選ぶというのはいいいことじゃないかなと思っています。

続きまして、サンタを探せ！は昨年はエミテラス所沢をお借りして、エミテラス所沢から元町コミュニティ広場までを活用しましたが、これはビンゴゲームでまちなかで1 5 0 人のビンゴの数字が入っているゼッケンを着たサンタを探して、サンタが見つかったらビンゴゲームにサインしてくれて、最終的には元町コミュニティ広場に行って抽選をして、

そして最後にダブルチャンスで株式会社ビクセンの天体望遠鏡をプレゼントするという非常に人が集まるゲームを開催しました。

このイベントも、まちなかを歩き、まちを知ってもらいたいということ、所沢にはこんなイベントがあるということを内外に発信したいという気持ちがありました。

そして最後に野老澤雛物語ですが、去年は雛巡りスタンプラリーを飯能市と所沢市で実施しまして、飯能市のお雛様のところに行った方は、所沢に行ったら良いものをもらえる。また、所沢に行った方がチラシを持って飯能市に行けばまた良いものがもらえるというゲームで、初めて相互交換のスタンプラリーを開催しました。

飯能市がヤマノススメなどの良い題材を持っており、所沢市はアマビエポスターのバッチを記念品とさせていただきました。今年も飯能まつりに行ってきましたが、その時に今年度も実施しようと言話をしました。

最後に、昨日開催したばかりですが、とことところん誕生祭を開催しました。風でテントが飛ばされるなどのトラブルもありましたが、何とか第1回目を開催することができました。

その他に所沢市のイベントでいろいろ歌を歌っていった方たちを年に一度集めて、とこまちコンサートというのを開催しています。今年はエミテラス所沢で開催してみました。ただ、安くしていただいています、いろいろ積み上げますとどうしても費用がかさんでしまい、また、入場

料を取ると特典がなくなり、賃料がさらに高くなってしまうので、開催場所はどのようにいくかと今思っております。

最後に旭橋の電灯が復活しました。三上博史さんという野老澤町造商店では有名な方なのですが、その時にいろいろやり取りをさせていただきました。その中で、当時旭橋にそっくりな本庄市の賀美橋を見に行こうとなり、「本庄市を参考に、所沢の旭橋にも電灯を付けてしまおう。」
「でも、本庄市の賀美橋の電灯と所沢の旭橋の電灯とだいぶ形が違うみたいである。」などのやり取りをし、今度本庄市に行こうという段取りになっていましたが、その後、三上博史さんはけがをきっかけに亡くなってしまいました。

ところが亡くなる前に、ところざわ文化遺産に旭橋の設計図が見つかり、予算さえつけば夢はかないそうだと思います、その後、令和7年10月11日に旭橋の点灯式が行われました。

このような活動を最低でも15年以上続けていると思います。やはり続けることは大きなことだと思います。イベントは一過性のものだから、活性化には役に立たないのではないかと思う方もいます。ただ、有志の市職員や町造商店のボランティアスタッフで成り立っており、対費用効果は高いですし、所沢駅からコミュニティ広場までのおよそ1キロを回遊させています。ゲームの収益などは寄附をし、また、去年はふるさと応援寄附を活用して、旭橋の電灯の復活に少し寄与したいということで寄附しました。

それから、旧町地区の人口増加はやはりずっと課題でした。来街者も非常に増えてましたが、新しく所沢市に来られた方々、特に東町はものすごくこどもが増えています。神明社を知らないなど、会話が成り立たない時もありますが、東町の90%以上は町内会に入っていて、町内の方々が仲良くなるきっかけになっています。

ちなみに私が住んでいるグラシスタワー所沢も、全世帯に入会していただきました。

イベントというのは非日常で、日常には関係ないというような形もあるのですが、非日常の中で秋田家住宅、旭橋、神明社、これらを題材にしていく中で、所沢の発見が日常に結びつくのではないかと、そういうところでは所沢は良いところがたくさんあるなということで、愛着心が湧いてくるのではないのでしょうか。ただ、非日常と日常といっても、相反するものではなく、そこには一つの愛着心の大きい源みたいのがあるのではないかと考えています。

本日のもう一つの課題である、旧庁舎と文化会館跡地の利用ということですが、やはりこういうイベントができたことから、日常生活でも所沢への愛着を感じられるものを造っていただきたいです。近隣にある所沢の名所、神明社や薬王寺もあるので、その風情を壊さないもの、汚れないようなものを造ってほしいです。

そして、私たちもですが、新しく来た人にも所沢の心のよりどころになるようなまちになっていただきたい。何も駅前だけではなくて、自然

の中にはこういう良いところもあり、そういうのが心のよりどころになるのではないのでしょうか。そういうのを壊してほしくはない。つまり日常と非日常の二律背反したものが同時に組み込まれる仕組みということは、まさにそういうことで、イベントと日常というのはそういう意味でイベントを通して所沢を発見しながら、自分たちの日常生活に入っていける、そういうようなゾーンにぜひなっていたきたいということが私の意見であります。

そしてもう一つ、町造商店が今年で商工会議所から離れてしまいます。それで、市の商業観光課の方々が、商店街連合会に移させてくれということになりましたけども、商店街連合会も赤字ばかりになってしまって嫌なので、まず黒字化したいなと思っていまして、そしたらまちづくり会社というのができないかなと提案と知恵をいただきたいと思います。

町造商店は展示もやっていますし、多くの皆さんに来ていただけます。それからイベントも十数年やっていますので、その継続性、人集めのノウハウがしっかりありますので、そういう面でも考えていただいて、今後も皆さんには応援していただきたいと思っております。

【参考人意見陳述終了】

【参考人への質疑】

末吉美帆子委員

日栄会の近代化研究事業について、すごいなと思ったが、3つの駅の間で三角形というのが、まさに今私達がこれからどうしようと調査して

いるところそのもので、本当に重要な話だなというふうに伺っていたが、タワーマンションがこの所沢駅からたくさんあるということに対して、よかったことばかりではなくて、わりと批判的な意見もあると思う。タワーマンションの住人をどう取り込んでいくかは話の中で大分分かったが、エミテラス所沢とグランエミオ所沢という所沢駅のリニューアルに対して、旧町地区の受ける影響とかそういうことはあったのか。また、どういうふうにそこの駅前の再開発と旧町地区の連携についてどのようにお考えになっているのか教えていただきたい。

田畑参考人

銀座商店街は市役所があり、昔は一番栄えていた商店街でした。その後、人口増加の目的にタワーマンションができ、はっきり言ってあまり流行っていないかなと私は思っています。私がイベントをやっている時だけは、近所の方が多くごった返していますが、普段はやはりそうでもないです。

あとエミテラス所沢とグランエミオ所沢は最初から商店街への加入について調整してきましたが、私が事業をやっているのは、あなたのところにいるお客さんをいかに外に出すことを中心でやっていますというように、いつも言っています。

そしたら業者側にも分かっていたいて、それで結構ですということになりました。すごい商業施設というのは分かるけれども、何回もリピートしているうちに飽きられてしまうのではないかと、建物だけが新しい

というだけでは魅力はずっとは続かないです。

そのときに、所沢には神明社や秋田家住宅、旭橋などがあり、やはりこれは利用する価値があつて、ちょうど所沢駅、ファルマン通り交差点、航空公園へと行く中で、これを利用していくことが今後の課題だと思っています。ただ、再開発も全て高層ビルにしようというのではなく、その中に神社があつてもそれはそれでいいのではないか、そういう開発をしていこう、凸凹していてもよいし、そこに緑があつてもよいという考えで再開発をしました。

それから、川越市とは違う道をたどってしまつて、昔は蔵などがたくさんありましたが、銀座通りにあつたものはほとんど壊してしまい、残っているのは秋田家住宅と町造商店のある齋藤さんの家と保存してある佐野屋商店の家だけが残っていて、今後も保存ができないのであれば、旧庁舎跡地などに持っていってもよいのかなと思っています。ただ、それは私の勝手な意見なので、それは皆さん方で考えていただければ思っております。

青木利幸委員

先ほど、委員会の中で、ソラバル実行委員会の深井参考人、所澤神明社の三芳参考人、そして株式会社コイヌマの肥沼参考人から説明があつた。

今後の跡地利用として3人の意見を聞くと、公園とかそれに隣接して駐車場とか、そういったものを希望しているような発言があつた。

旧町地区の建物なので旧町地区の方たちが納得するようなものができればいいかなと思っていますが、今後旧庁舎と文化会館を解体していくという計画があるみたいだが、田畑参考人くらい地域の方々と根付いていると、いろんな方から声を聞くと思う。先ほどの参考人の説明では、公園みたいなものをつくっていただければとの声が多かったが、田畑参考人の話を聞くと、日常生活で所沢への愛着が感じられるものとかが挙げられているが、周りの方々からは跡地利用としてどういった声が届いているのか教えてほしい。

田畑参考人

最もつくってほしいのは市役所です。ただ、それは現実的には無理なので、それであれば、ハードなものはいらないと思っています。ハードなものは所沢駅前にあるので、同じものをつくっても何の意味もないのではないかと思います。それであれば、神明社や深井醤油にある蔵とかを生かした、所沢にはこういうところがあるのだなというような場所にしていきたいと思っています。

青木利幸委員

市の考え方はこれから聞けると思うが、富岡地区の人間としては所沢市の大きな価値のある財産としては、旧庁舎と文化会館の跡地は恐らく最後になるのかなと感じる。例えば、昼間の人口だが、住まいは所沢で昼間は大体都内のほうに通勤してしまい、銀座通りを通ってみても、あまり人を見かけないような印象がある。そのために、例えば大学を誘致

するとか、そのことによって昼間は学生がにぎわうのではないかと思う
こともあるが、その辺はどう考えるか。

田畑参考人

私もそのようなことは考えたことがあります、少しキャパシティが
足りないかなと思いました。人が自然に来ることも大切だとは思いますが、やはりグラウンドなども必要なので、難しいかなと思います。私と
しては安らぐ空間というのを整備してほしいです。博物館などは難しい
かもしれませんが、公園など、そういう空間が欲しいなと思います。

大石健一委員
長

この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条
第1項の規定により、副委員長と交代します。

長谷川礼奈副
委員長

それでは、委員長の職務を行います。

大石健一委員

先ほど、町造商店を中心としたまちづくり会社という御提案をいただ
いた。これまで20年くらいにわたり、様々なイベントを育てて、活動
され継続してきたわけだが、今後まちづくり会社をつくるとなると、我々
も視察で和歌山県和歌山市や大阪府大東市に行ったりして、様々なまち
づくり会社を見てきたけど、例えば旧庁舎と文化会館の跡地とか、秋田
家住宅やコミュニティ広場とか、ブランズタワー所沢の前の広場もそう

だが、そういったまちづくり会社として継続していくためには、やはり収益を上げていかなければならない。収益が上がることによって、様々なイベントができる。田畑参考人も継続していくためには、後継者を育てていかなければいけないということを普段から言っているが、そういった夢をもう少し語っていただきたい。

田畑参考人

私自身これらのイベントができるのも、理事会の理事長をやっていて、まずお金がないので、年初に私が100万円を自治会から引き出して、それを原資に補助金を入れたりして、何とか採算を取っているというのが現実です。でも、やはりまちづくり会社というのはカッコいいことを言っても、原資がないと成り立たないので、まずは原資をつくれる仕組み、それから、まちづくり会社をやっている人も稼げるような仕組みというのは、具体的には無いのだが、飯能市に行ったら街路灯に広告の画面が変わるものがありました。そういうのを立てていただいて、それを収益源にするなど、なるべく所沢市に迷惑をかけないように、初期投資だけであとは元を取れるような仕組みを考えていただければ、あとはうまくできると思いますので、その辺は一緒に考えていきたいと思います。

大石健一委員

広告もそうだが、旧庁舎と文化会館の跡地とかで活動して、何か収益上げられたらという夢を教えてください。

田畑参考人

継続性というのが町造商店にはあるので、お任せいただければそういうのはしっかりできると思っております。

長谷川礼奈副
委員長

それでは、委員長と交代します。

【参考人への質疑終結】

大石健一委員
長

この際、参考人に対し、委員会を代表して一言御礼を申し上げます。
本日はお忙しい中、本委員会のために御出席いただき、貴重な御意見を述べていただき、心から感謝いたします。本委員会といたしましては、いただいた御意見を今後の委員会調査に十分生かしてまいりたいと思います。

休 憩（午後１時５５分）

（参考人退室）

再 開（午後１時５８分）

【概要説明】

柴崎経営企画
課主幹

所沢市役所旧庁舎及び旧所沢市文化会館の活用に関しまして、御説明いたします。なお、サウンディング型市場調査を実施しますということでホームページに掲載している資料をお配りさせていただきましたので

御参照いただければと思います。初めに2つの建物それぞれの基本的な情報について御説明いたします。

まず、宮本町1丁目2番40号にございます旧所沢市文化会館は、昭和45年12月に竣工した築55年の鉄筋コンクリート造、地下1階・地上4階建ての建物で、敷地面積は約2,300㎡、用途地域は第1種住居地域でございます。老朽化と併せ、近隣に所沢まちづくりセンターや図書館所沢分館が新たに開設されたことに伴い、平成22年3月に閉館いたしました。

次にその南側の、宮本町1丁目1番2号にございます所沢市役所旧庁舎は、昭和43年11月に竣工した築57年の鉄筋コンクリート造、地下1階・地上5階建ての建物で、敷地面積は約4,400㎡、用途地域は商業地域でございます。現在の市庁舎が新たに供用開始となりました昭和62年に、市役所としての役目を終えました後は、社会福祉協議会やシルバー人材センター、公共施設管理公社などが利用していましたが、老朽化に伴い、平成30年5月に閉館いたしました。

市では、両施設の閉館に併せ、当該跡地の有効活用について検討を始め、企業誘致など、民間事業者からの提案を継続的に募集してまいりました。市ホームページでの周知や金融機関への情報提供などにより募集を行ってきた結果、これまで提案や相談、問合せを数多くいただいていたところですが、いずれにおきましても実現には至っておりませんでした。

これまでのヒアリングを通して、民間事業者におきましては解体工事に伴う様々なリスク、例えば土壌汚染やアスベストなどが課題であることが分かってまいりましたことから、市といたしましては、まずは老朽化が進んだ当該施設の解体を市が行うことを念頭に置き、その上で当該跡地の有効活用策について、サウンディング型市場調査により、幅広く民間事業者からのアイデアやノウハウの提案をお聞きしながら、今後の可能性を調査検討していくことといたしました。

現在、市では10月1日よりサウンディング型市場調査を実施する旨を市ホームページ等で公開し、まずは事業者に現地を見ていただく見学会を行っているところです。この現地見学会は、想定を上回る多くの事業者から参加希望をいただいたところでございます。11月5日までがサウンディング調査へのエントリーをしていただく期限となっており、その後エントリーいただいた事業者から11月14日までに提案書を提出いただき、その後に事業者と対面対話を順次実施していく予定でございます。なお、このサウンディング型市場調査の実施結果に関しましては、年明け1月頃を目途に公表することを想定して進めているところでございます。

その後、今回のサウンディング型市場調査の結果を踏まえ、地域住民や商店街からの御意見、御要望を広く伺いながら、市として活用の方性の検討と整理をさらに進めていき、第2回目のサウンディング型市場調査を経まして、最終的な事業公募に進んでまいりたいと考えていると

ころでございます。

最後に、活用に係る全体のスケジュールでございますが、あくまで想定ではございますが、解体の設計に2年、解体工事に2年程度を要するものと見込んでおまして、その間に事業公募と選定を進めてまいります。解体が完了した後の施設整備に更に2年程度を要するものと見込んでいるところでございます。

いずれにいたしましても、所沢市役所旧庁舎及び旧所沢市文化会館の活用を通じまして、市民の皆様にとりまして、利便性や回遊性が向上し、周辺の賑わいを創出していくことで、第6次所沢市総合計画後期基本計画に掲げております「『住みたい、住み続けたい』と思ってもらえるまちづくり」につなげてまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

【質 疑】

植竹成年委員

実施要領3ページの利活用の考え方ということで、今説明があったサウンディング型市場調査ということで提案を求めるとのことだが、街づくりを進める上での方向性を考慮した提案ということでここに4つの取組テーマがあるが、この4つの内容というのは、今日参考人に出席いただいて、それぞれこの跡地利用についての要望等の聞いたことが、ここに反映され、ほぼ一致するのかなと確認できたのだが、この地元・地域の方々の御意見とともに、ここにある4つの内容について、市としては

柴崎経営企画
課主幹

どのようなものをイメージしているのか伺う。

御指摘いただきました4つのテーマですけれども、こちらのほうは所沢駅周辺のグランドデザインに掲げている4つのテーマでございます。こちらを基本にして地域貢献に繋がるような御提案をいただければということを考えておりますが、市のほうでどういったものをイメージしているかというのは、今サウンディング型市場調査をやっている時点では自由な意見を求めているということもございますので、あえてフラットな状況とさせていただいております。

今までは企業誘致だとか大学というのは示していたところがございますが、それで提案が実現しておりませんので、まずはフラットにしてということで意識させていただいております。

植竹成年委員

そういったところでは具体的な市としてのイメージというものは、今はお持ちではなく、これからまた提案を募ろうということであるが、そのサウンディング型市場調査の中で見学会に参加されている企業団体数はどのくらいあるのか。もう既に終わっているがどのくらいあったのか伺う。

柴崎経営企画
課主幹

先ほど御説明しましたとおり、想定していたより数多くの事業者が来ておりますが、実数というのは具体的に外に出してどういう影響がある

かどうか分からないので今の時点では公表しておりません。しかし、最終的にはこれから行うサンディング型市場調査の本エントリーをして対面のヒアリングを行いますけれども、そちらのほうは年明けには概要を発表する予定でございますので、その頃に企業数というのは大体の規模がお示しできると思っております。

植竹成年委員

実施結果の公表が令和8年1月とされているが、先ほどの説明を聞くと、今回多くの方がこうして見学会に参加されて、今度はその具体的な提案をということで1月中に発表できるのかもしれないということであり、その後また第2回のサウンディング型市場調査を経てということで説明があったが、第2回の時点では、新たな企業・団体をまた同じように募るのか。それとも具体的に1月中にまとめた提案をさらにそこから何らかの形でサウンディング型市場調査をするのか。どのようなことを第2回サウンディング型市場調査でやろうとしているのか。

柴崎経営企画
課主幹

委員御指摘のとおり、1回年明けにまとめた結果を来年度以降、市民の皆様、商店街の皆様に御意見を頂戴する機会をいただきまして、地元の意見を取り入れた形でどういう方向に進んでいいかというのを整理していきます。その整理された情報を基に、今度はそういうコンセプトのもと進んでいくためには何か法的な条件とか、抵当権があったほうがいいとか様々な可能性がありますが、今はまだまとまっていないのでどう

も言えないですけど、そういったところでのサウンディング型市場調査をもう1回やろうと思っております。

末吉美帆子委員

サウンディング型市場調査が終わった後、この計画だと2年間かけて市が解体を行って、その後公募選定という認識でよろしいか。解体した後に実行していく事業者を決めるのか。それとも、事業者が決まってから解体するのか。

柴崎経営企画課主幹

イメージとしましては、今解体を念頭に予算化等を進めておりますが、今年度調査をして、解体するにも設計が必要なので、順調に進めば令和8年度、9年度で設計を行います。その間に開発側は公募まで進んでいけばいいなというようなイメージです。

解体工事は令和8年度、9年度が解体設計で、令和10年度、11年度が解体工事です。先ほど申し上げました2回目のサウンディング型市場調査は令和8年度に行い、それをもって令和9年度中に公募をやりたいなということですので、解体工事が終わった時にはもう何らかの動きがすぐできるような準備をしたいなということで事業スケジュールを組んでおります。

末吉美帆子委員

次にどんな姿になるかは別として、解体自体は同じ作業であるというふうに思っているのか。

柴崎経営企画

課主幹

今ちょうどその過渡期ですけども、サウンディング型市場調査をやっておりますが、もし、解体もやってしまいますという事業者が現れた際は、これは税金を投入しないでいいチャンスでございますので、ぜひそちらを優先的にということはあるかもしれませんが、やはり先ほどあったように、土壌汚染などのリスクがありますので、可能性は低いかなと思っております

末吉美帆子委

員

所沢市役所旧庁舎跡地のみ、旧所沢市文化会館跡地のための提案も可能ですということが書かれているが、どちらかだけということで実行していくのはなかなか難しいと思うが、市としてはその点はどう考えているのか。

柴崎経営企画

課主幹

基本的には一体的な活用を今回のサウンディング型市場調査でお願いしておりますが、事業者の規模や、やりたいことによっては片方だけという提案もあると思います。それはそれで今回自由に広く意見を設けておりますので、いただきたい選択の一つとして考えております。

末吉美帆子委

員

このサウンディング型市場調査自体にはどれくらい予算をかけているのか。

柴崎経営企画
課主幹

今回行っております発案段階のサウンディング型市場調査は、予算を
かけておりません。

植竹成年委員

令和10年度、11年度が解体工事実施期間で2年間と今説明があり、
第2回のサウンディング型市場調査を年明けに具体的に詰めていくとい
うことだが、このような形で解体設計、解体工事のスケジュールが決ま
っている中で、このサウンディング型市場調査を行った上で、いつ形と
して明確なビジョンというのが示されるのか。

柴崎経営企画
課主幹

解体を行うかどうかの境だと思いますが、今回サウンディング型市場
調査をしてヒアリングをした結果をもって、令和8年度の予算編成がこ
れから始まりますので、そこにどうにか間に合わせて、所管である管財
課と調整の上、決めたいと考えています。

植竹成年委員

令和8年度の新年度予算でこの解体設計を計上してくる時点では、あ
る程度のビジョンがもう形として示されるというイメージでよいか。

柴崎経営企画
課主幹

解体するかどうかというようなビジョンとしてははっきりしてくると
思います。

植竹成年委員

解体するビジョンというか、その解体後の跡地利用について形として

も見えてくるというイメージでいいのか。

柴崎経営企画

課主幹

跡地活用のビジョンにつきましては、もう少し先に2回目のサウンディング型市場調査をやって、さらに詰めて公募をする頃にはある程度の目指すものは決まってきて、大体こういうものができるかなというのは分かると思いますが、さらにそこから公募して事業者が提案してくるので、最終的にどんなものができるかというのは、公募で選定された提案を見てみないと分からないです。

石原昂委員

実施要項3ページの利活用の考え方に、借地借家法のことを書いてあるが、これは49年間まで賃借期間で事業用の定期借地権のことだと思う。そうすると、これはもう用途として居住用マンションが認められないので、一部にマンションが入るといった可能性はもうこの段階で排除されることになると思うが、そういう理解でよろしいか。

柴崎経営企画

課主幹

委員御指摘のとおりです。事業用借地で10年から50年だとマンションが入ってくる可能性がほぼないですけれども、まずは4つの取組テーマを設定したのと同時に、市の意思としてそこもマンションではない商業とか賑わいとかそっちの方向で提案が欲しいということで、意思表示として設定させていただいております。

ただ万が一、提案の中で、もう全く商業的な御提案とか公園とかいう

	<p>いろあるとは思いますが、マンションしかないと思っちゃったら、もうそれしかないんで、また考え直さなくてはいけないということがあります。そういう意味で広く可能性を今回調査しております。</p>
石原昂委員	<p>第2回のサウンディング型市場調査で借地借家のところの条件がまたアレンジされてくる可能性があるということか。</p>
柴崎経営企画 課主幹	<p>そのとおりです。</p>
長谷川礼奈委 員	<p>アスベスト調査をしていると思うが、現段階で分かっていることがあるのか。まだ結果が出てないということであれば、いつ頃結果が出る予定なのか。</p>
柴崎経営企画 課主幹	<p>アスベスト調査に関しましては、ちょうどこれから入る予定と所管の管財課から聞いております。結果は年度末頃に分かると聞いております。</p>
大石健一委員 長	<p>この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条第1項の規定により、副委員長と交代します。</p>
長谷川礼奈副	<p>それでは、委員長の職務を行います。</p>

委員長

大石健一委員

1 回目のサウンディング型市場調査が始まったということで驚いた。
1 月に大体公表していただけるということで、2 回目までに住民や商店街などの意見を聞いていくということだが、1 月以降の第 2 回サウンディング型市場調査まで改めて条件等も変わってくると思う。どういう手法と段取りで、その間に地元の皆さんや市民の皆さんに意見を聞いていくのか。

柴崎経営企画
課主幹

来年度以降は、今回の 1 回目のサウンディング型市場調査を踏まえまして、職員だけの力量だと限界があると思っておりますので、できれば委託をしたいと思っています。そういうプロの目線から相談して具体的に決めてまいります、直接自治会とか商工会議所とか商店街をお伺いして聞く形もあると思いますし、皆さんからそれぞれ聞いているとまばらな意見になってしまいますので、ワークショップ型の意見交換等を行って、地元地域を取り巻くステークホルダーのまとまった意見を 1 回見たいというところもございますので、そういう方式もあると思っておりますが、現時点ではまだ決めておりません。

大石健一委員

まとまりの意見を聞いてくというのは、令和 9 年度くらいに基本計画策定委員会みたいなのを作る計画なのか。

柴崎経営企画

課主幹

どういった提案が1回目に出てくるか、まずその様子を見たいとは思っておりますけれども、それを受けてどういったところ、特に地元の方とかから意見をもらいたいかというところにもよってくるので、まとまった意見というか、ワークショップをやるとある程度みんなで共有して、未来に向かってみんなが一致団結できるような利点もあると思いますので、個々の意見をもらいつつ、みなさんの意見をもらいつつというところを両面で見えていけたらいいなと思っております。

委員会については、今はまだ決めておりません。

大石健一委員

所沢の街中魅力づくりの関係で、先ほど参考人として来ていただいた方々が入っており、プラットフォーム作りを目指して街中の賑わい回遊性を目指していこうというのを都市計画課のほうでやっているが、そちらのほうで今ある程度の意見が出てきて、その中でもまちづくり会社みたいなものも視野に入れていこうと話をされているそうだが、経営企画部だけでなくそういったそちらとの整合性等はどういうふうに進めていくのか。

柴崎経営企画

課主幹

委員御指摘のとおり、街づくり計画部のほうでエリアプラットフォームを進めておりますし、商店街の経済は産業経済部とかも関わってきますけれども、どのようなところまで、例えばエリアプラットフォームに

よる事業参画というのが可能になるかどうか分かりませんが、適宜情報共有を図って、もちろん調整して、積極的に意見交換は行っていききたいと思います。

大石健一委員

今後、一緒にやってくれる可能性があるということと理解した。それから、今まで旧町地区では元町北地区第一種市街地再開発事業という今の所沢中央公民館が建てられて、まちづくりセンターに名前が変わったが、他の地域には体育館があるが、そこには体育館がないから、体育館を造ってほしいという請願に署名され、採決されたわけである。その時から恐らく20年くらいたった。だんだん人の気持ちも変わってきて、今は公園を作ってほしいという要望ももちろん一緒に出た。それは民間開発するにおいても、どのくらいこれをやってほしいと説明しているのか。

柴崎経営企画

課主幹

請願にありました体育施設とか、要望にあります防災公園ですが、今回サウンディング型市場調査をする際に資料として載せておりまして、対面のヒアリングの際もその辺には触れさせていただいて、実現の可能性がどのくらいあるのかというのは聞いてみたいと思っています。

大石健一委員

開発において、どこまでが民間で、どこまでが市でやるのか決めるのはこれからだが、それは今までの要望も含めて可能性があるということ

でいいのか。

柴崎経営企画
課主幹

そこは公共投資してくれれば実現しますよとか、そういう企業もいら
っしゃるかもしれませんので、そういったところを探っていきたいとは
思っております。

長谷川礼奈副
委員長

それでは、委員長と交代します。

【質疑終結】

休 憩（午後２時２５分）

再 開（午後２時２６分）

○所管事務調査「中核市」のうち産業廃棄物行政について

【概要説明】

齋藤経営企画
課長

本市における埼玉県の事務権限の委譲の状況と中核市移行の経緯について御説明申し上げます。

本市は平成14年4月より特例市となりまして、埼玉県の手続権限の一部の委譲を受けるとともに埼玉県の、知事の権限に属する事務処理の特例に関する条例に基づき、主に保健・福祉・環境の分野において、埼玉県の事務権限の委譲を積極的に受け入れ、平成27年4月1日の改正地方自治法の施行により、特例市が廃止となった後におきましても、施行時特例市として、これまで同様に事務権限の委譲を継続し、地域の実情と住民の意向を反映した市民サービスの向上を図ってきたところでございます。

一方で、中核市への移行に関するこれまでの経緯でございますが、平成22年度にプロジェクトチームを立ち上げまして、検討を行ったことがございますが、その当時は、財政状況などを総合的に勘案した結果、第5次所沢市総合計画にある政策の実現を最優先に取り組んでいくこととし、中核市への移行は、継続的な課題として研究していくという結論にいたりました。

しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症や自然災害の激甚化、少子高齢化や人口減少社会の進展など、本市を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、地域の課題は、今後も、ますます多様化と複雑化が進

むことが想定され、住民に身近な行政を、より住民に身近な市町村が、自らの判断と責任で取り組むことが求められるようになってまいりました。

そうしたことを受けまして、今後も多様化、複雑化した地域課題に迅速かつ的確に対応していくためには、さらなる事務権限の拡大を図り、これまで以上に高い自主性を備えた都市へと発展していく必要があります。

こうした状況をふまえ、中核市移行について再度検討するため、令和5年10月に中核市移行準備調整会議及び中核市移行準備プロジェクトチームを立ち上げ、中核市移行による行政サービスの拡充や財政への影響などを調査研究し、調査報告書としてまとめ、令和6年6月に公表し、令和12年4月1日の中核市への移行を目指すことを表明いたしました。

その後、令和6年10月15日に、全員協議会において、中核市制度の概要、委譲される事務、財政への影響、効果や課題について御説明いたしまして、令和7年2月7日に、中核市移行に関する基本方針（案）を公表し、翌3月に策定しました第6次所沢市総合計画後期基本計画におきまして、中核市への移行を目指すことを掲げたところでございます。

併せまして、中核市への移行をスムーズに行っていくためには、県からの支援が必要不可欠でありますことから、埼玉県知事に対しまして要請書を3月28日に提出し、中核市移行に向けた協力について要請を行

ったところでございます。

次に中核市への移行に伴う事務権限について、今回の議題でもあります産業廃棄物行政という点も踏まえながら、御説明いたします。

中核市に移行いたしますと、多くの事務権限が埼玉県から委譲されます。およそ2,000件以上の事務権限が委譲されることを見込んでおりますが、産業廃棄物行政を含む環境分野では、およそ200件程度の事務が委譲されるものと見込んでおります。

特に、廃棄物行政の分野におきましては、主に一般廃棄物処理施設の設置許可、産業廃棄物の収集運搬業の許可、産業廃棄物処分業の許可、産業廃棄物処理施設の設置許可などに加え、これらの許可業者に対する立入検査、指導を行うとともに、産業廃棄物の不適正保管や不法投棄に対する指導や命令といった事務についても行うこととなります。

次に、本市における中核市移行後の組織体制、人員配置でございますが、今後、その詳細を決めていく必要がありますが、現在、埼玉県と事務の内容について調整を図りつつ、庁内の検討体制である中核市移行推進委員会及び環境・街づくり専門部会をはじめとする専門部会で調査検討を進めているところでございますので、具体的な組織体制や人員配置は今後お示しできるものと考えております。

最後になりますが、今後、ますます多様化、複雑化する地域課題に対しまして、中核市に移行することによりまして、迅速かつ的確に対応し、地域の実情に合った、より質の高い行政サービスを自らの責任で提供す

ることを目指してまいります。

市民の皆様の可能性がより広がっていき、さらに発展、成長していくため、もっと暮らしやすいまち、もっと自主性のあるまち、もっと魅力あるまちの3つを移行の目的に定め、可能性が広がるまちを実現できるよう準備を進めているところでございます。

【質 疑】

植竹成年委員

プロジェクトチームを立ち上げて、令和12年の移行で話が進められているということだが、他市の組織体制についてということで、産業廃棄物を所管する課があると思う。今このプロジェクトチームの中にはこの環境に関するものも含まれて話が進められていると思うが、本市においても、産業廃棄物に関する専門の課というのは設置する方向で議論が進んでいるという認識でいいのか。

齋藤経営企画
課長

現在のところ、埼玉県は3市は産業廃棄物を専門所管とする専門の部署を設置しております。

所沢市におきましては、そういったことも念頭に置きながら、まだ現在確定はしておりませんので、一般廃棄物を所管する課と産業廃棄物を所管する課が一緒であることのメリットもございますので、そういったことも含めて検討段階というところになります。

末吉美帆子委員

産業廃棄物関連の事務量は何人くらい必要なのか。

齋藤経営企画課長

具体的な人数ですが、他市の組織の関係をダイレクトに申し上げるのは差し控えさせていただきたいのですが、およそ10名前後の体制で産業廃棄物関連の所管があるというところでございます。

大石健一委員長

この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条第1項の規定により、副委員長と交代します。

長谷川礼奈副委員長

それでは、委員長の職務を行います。

大石健一委員

所沢市はダイオキシン汚染報道問題が1999年にあり、全国に産業廃棄物業者が多い市だということを言われていたが、意外に川口市、川越市のほうが多くて、越谷市とほぼ同じなのだというふうに思った。この夏、大阪府寝屋川市に視察に行き、産業廃棄物行政のことを聞いてきたが、やはり寝屋川市も産業廃棄物業者がいるとのことだった。また、8月には所沢警察署をお招きして中核市になった場合の取組なども聞いた。

その中で、やはり寝屋川市は警察からの再任用職員を採用していると

ということや、埼玉県内でも他市では、警察からの出向、県の職員である埼玉県警からの出向を、その産業廃棄物行政に対してしており、それで反社活動をしているような企業があれば、それに対応してもらおうという取組をしていると聞いた。その産業廃棄物業者に対する対策として、埼玉県警からの出向や、その職員の配置に関する協議はどのような形で進められているのか。

齋藤経営企画
課長

産業廃棄物行政におきまして、県内でもそうですけれども、全国的に、現役の警察官の出向ですとか、県警察官のOBの方を採用、配置をしまして事務を行っているというふうに考えております。

現時点では埼玉県との協議の中で具体的にまだ、警察官の現役を置いてくださいとか、OBになるとかならないとかそういった具体的な協議にはまだ進んでおりません。

大石健一委員

保健所の場合は、例えば埼玉県の保健所の職員に出向していただいて、しばらく引継ぎするまで任に当たっていただく。職員が育ってくる間、県の職員に出向していただいて、育てていって、他の保健所との整合性を図っていくみたいなことはあるようだが、この産業廃棄物行政については、埼玉県の西部環境管理事務所とかが対応しているようである。そういうところから職員の派遣とかをしばらくいていただくとかそういう協議とかはしているのか。

齋藤経営企画
課長

事務の移管につきましては、保健所の業務もそうですが、川口市とか越谷市の例がございますので、そういったところを参考に、これくらいの人事交流というのが必要だろうというのは、埼玉県とざっくりとした協議はしているところです。

例えば産業廃棄物に関して言えば、研修をしていただくとか、その後埼玉県のほうから何名か来ていただくとか、そういったことがあるというふうに想定しております。

長谷川礼奈副
委員長

それでは、委員長と交代します。

【質疑終結】

○委員会の開催について

大石健一委員
長

次回の開催について、所管事務調査「旧庁舎と文化会館跡地の活用」、所管事務調査「第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略」、所管事務調査「農地・これからの農業」についてを11月21日に説明員として経営企画部、産業経済部、農業委員会事務局を呼び、委員会を開催することとよろしいでしょうか。

(委員了承)

大石健一委員

所管事務調査「旧庁舎と文化会館跡地の活用」について、地方自治法

長

第109条第5項の規定に基づき、11月21日に参考人として所沢商
工会議所の鈴木慎哉氏、所沢銀座協同組合理事長の藤永博氏の出席を求
め、意見を伺いたいと思いますが、これについてもよろしいでしょうか。

(委員了承)

大石健一委員

所管事務調査「農地・これからの農業」について、地方自治法第10

長

9条第5項の規定に基づき、11月21日に参考人として関谷農園代表
の関谷豊氏、ゼロファーム代表の佐藤勇介氏の出席を求め、意見を伺い
たいと思いますが、これについてもよろしいでしょうか。

(委員了承)

植竹成年委員

所管事務調査「旧庁舎と文化会館跡地の活用」について、本日経営企
画部から説明と質疑を実施しており、次回また参考人も呼ぶが、聞いて
終わりにするのか、最終的に何か示すものを考えているのか。

大石健一委員

住民の説明とか、地域住民の意見をどのように聞くのかというところ

長

で、旧庁舎と文化会館跡地の活用というのはなかなか合意形成は難しい
と思いますが、もし今後の進め方について合意形成ができれば、意見が
まとまればよいかなとは思っています。

散 会 (午後2時45分)

総務経済常任委員会

令和 7 年 11 月 4 日(火)

開 会

午前

・ 午後 1 0 時 0 分

散 会 午前 ・

午後

 2 時 4 5 分

場 所 全員協議会室

委 員 長	大 石 健 一	✓
副 委 員 長	長谷川 礼 奈	✓
委 員	末 吉 美帆子	✓
〃	中 井 めぐみ	✓
〃	植 竹 成 年	✓
〃	青 木 利 幸	✓
〃	入 沢 豊	✓
〃	石 原 昂	✓

議 長	粕 谷 不二夫	
-----	---------	--

●説明員等出席表

【総務経済常任委員会】

令和7年11月4日

説明員等			
部局	課	職名	氏名
経営企画部		部長	鈴木 明彦
経営企画部		次長	並木 茂幸
経営企画部	経営企画課	課長	齋藤 伸宏
経営企画部	経営企画課	主幹	柴崎 大助
経営企画部	経営企画課	副主幹	大館 徹
経営企画部	経営企画課	主任	星野 啓

参考人	
肩書等	氏名
ソラバル実行委員会	深井 隆正
所澤神明社	三芳 文彬
株式会社 コイヌマ	肥沼 直明
所沢地区民生委員・児童委員協議会会長	齋藤 千里
無礼講プロジェクト	角田 テルノ
とことこまちづくり実行委員会	田畑 大介

議会事務局			
部局	課	職名	氏名
議会事務局		主査	谷口 周
議会事務局		主任	入江 亮